

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

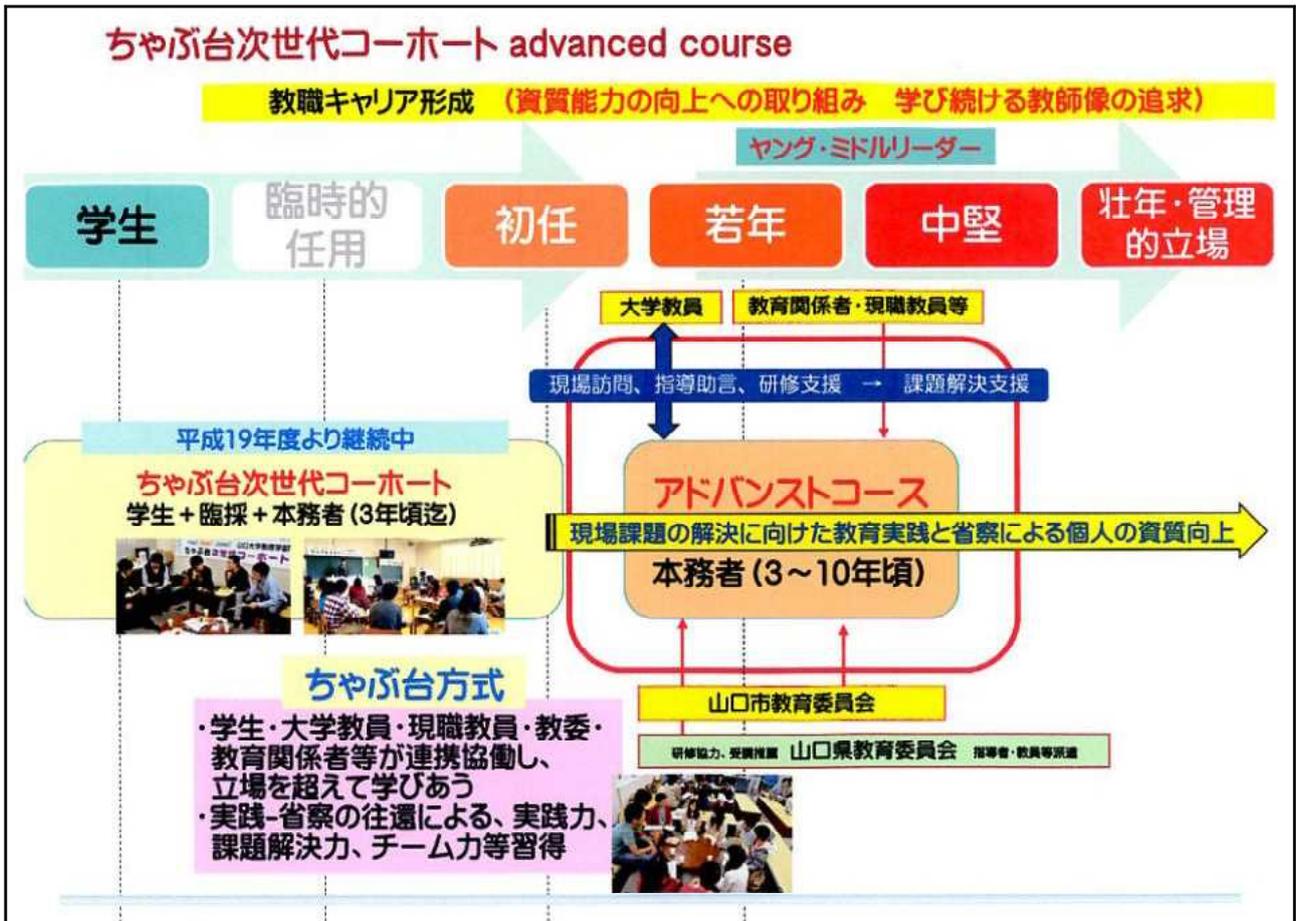
報 告 書

プログラム名	「ちゃぶ台」を囲む若年教員の「夢」をミドルリーダーとしての「志」につなぐ協働型教員研修モデル (ちゃぶ台次世代コーホート advanced course)
プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none">・ 本学部が展開している「ちゃぶ台方式による協働型教職研修計画(ちゃぶ台プログラム)」や、教員養成・教員研修プログラム「ちゃぶ台次世代コーホート」7年間の成果を元に、既存の若年教員の育成に向けた研修組織(ちゃぶ台次世代コーホート)に加えて、新たにミドルリーダー育成をめざす研修組織を確立し、効果的な研修内容・方法等の開発を提案したものであること。・ 正規教員経験3年目頃から10年目頃までの教員による研修組織(ちゃぶ台次世代コーホート advanced course)を設立し、個々の教育実践の成果や課題の共有と省察、教えあい・学びあい等を通じたミドルリーダーとなるための資質能力の積み上げ、教職実践課題の解決力、省察力の醸成等を図ったものであること。・ 県教委・市教委との協働や学校等現場での教職協働実践の充実を進め、受講生推薦、学校現場での実地研修や大学教員派遣による課題研修、協働実践等の充実を図るとともに、教員養成・研修に対する意識改革に資するために開発したものであること。・ 実施にあたっては、本学部・山口県教委・山口市教委で構成する「教育連携推進協議会」のもとに、大学教員、県・市教委担当者、受講者代表等で構成する「実行委員会」と「運営委員会」を組織して推進したものであること。

平成27年3月

山口大学 山口県教育委員会 山口市教育委員会

○「開発プログラム」のイメージ



I はじめに

教育委員会と大学が連携協働し、養成段階から教職生活全体を通じた学びを支援し、教員の資質能力の向上に努めることが「中央教育審議会」で提言され、現職研修プログラムの協働開発、支援体制の構築や、教員や管理職に求められる資質能力の解明等が期待されている。

山口県では教員の大量退職・新規採用教員の増加期を迎え、今後大幅な教員の入れ替わりが予想される。また、教員採用選考の動向や状況等から、採用後も自らの「教員としての質」を高めていける教員を育てる必要があり、大学と教育委員会が一体となった養成・採用・研修の取組を推し進めるため「山口県教員養成等検討協議会」を設置し、高い志、意欲や実践的指導力をもつ教員を育てる体制づくりや取組が進められている。

山口大学教育学部も「地域密接型」教員養成学部としての役割や意義を再確認し、学部改組、カリキュラム改善や教職大学院設置等に向けた取組をとおして、教員養成・採用・研修の一体化による「学び続ける教師」の養成・育成による地域（社会）貢献に努めている。

現在、若年教員は、学校教育推進上の課題がますます高度化、多様化、複雑化する中で、学校活力の向上、知識技能の刷新や「学び続ける教員」としての成長等が期待されている。特に今後の教員年齢構成の推移や、主任や校務推進役として活動する機会に恵まれにくくミドルリーダーとしての力量形成が遅れがちな現状等をふまえ、早い段階からリーダー的視点をもって取り組める人材を育成することが必要である。大学と教育委員会はますます連携・協働して、現職研修プログラムの改善、高度化を図り、採用3年頃から計画的にミドルリーダーの育成に取り組むことが必要である。

また、学校組織の健全な経営、実効的運営においては、校長・教頭等管理職の高いマネジメント能力が問われるが、同時に、学年、校務分掌や教科部会等先導し「コーディネーター」や「アドバイザー」として業務するミドルリーダーの存在は極めて大きい。ミドルリーダーには、学校経営や組織運営に関する基礎知識や技能、組織内の連絡調整や他の教職員に対する指導助言等に関するスキルが必要であり、学校全体のマネジメントを意識し、人材育成の視点をもって組織経営や分掌運営にあたることのできるミドルリーダーの育成は今後の学校経営・運営において大きなカギを握る。

そこで、山口大学教育学部は、今後の学校教育や学校運営に大いに貢献しうるミドルリーダーの養成に資する教員研修カリキュラムを開発することとし、ここに、その開発と取組の実際を具体的に報告し、各地の教員研修の活性化に寄与したいと考える。

開発プログラム名

「ちゃぶ台」を囲む若年教員の「夢」をミドルリーダーとしての「志」につなぐ協働型教員研修モデル（ちゃぶ台次世代コーホート advanced course）

開発プログラムの概要

本プログラムは、正規教員経験3～10年目教員による研修組織（ちゃぶ台次世代コーホート advanced course）を設立し、大学教員、県・市教委指導者、現職教員や教育関係者等との協働のもとで、個々の教育実践、成果や課題の共有と省察、教えあい・学びあいや学校現場での実地研修や大学教員と協働した課題研修等を通じて、ミドルリーダーとしての資質能力の深化、教職実践課題の解決力、省察力の醸成等を図る教員研修モデルプログラムとする。そこで課題研修、実地指導研修とピア・サポートで構成する。

本プログラムは、本学部、山口県・山口市教育委員会で構成する「教育連携推進協議会」のもとに、大学教員、県・市教委担当者、受講者代表で構成する「実行委」と「運営委」を組織し推進することとし、大学と教育委員会の一層の連携協働に資するものとする。

II 開発の目的・方法・組織

1. 開発の背景と目的

(1) 背景、問題意識等

- ・ 現在、教育委員会と大学が連携・協働し、養成段階から教職生活全体を通じた学びを支援し、教員の資質能力の向上に努めることが「中央教育審議会」で提言されるとともに、教育振興基本計画においても位置づけられ、教員研修については、大学と教育委員会が連携して研修プログラムを開発することが求められている。大学が有する知見を積極的に活用した教員研修の充実、教員研修プログラムの開発に加えて、大学においては学校等と結びついた実践的研究の拡大、理論と実践の往還による養成教育の充実や教員の意識改革等、両者にとって極めて有効な方向を示している。
- ・ 山口県では、教員の大量退職・新規採用教員の増加期を迎え、今後10年間に約4割の教員が入れ替わると予想される。山口県教育を支えてきた先達の教員たちが積み重ねてきた教員文化や教育力の伝承は大きな課題である。また、教員採用選考志願者数・志願倍率も減少・低下傾向にあり、実践的指導力が十分に身につけていない者や、多様化、複雑化する諸課題に適切に対応できない者も見られ、採用・任用直後から「即戦力としての働き」が求められる「教員としての質」の向上が求められている。また、教員集団の一角を占める臨時的任用教員も教員採用数の増加により不足傾向にあり、その質の向上が必要となっている。

- ・ こうした中、大学・県教委が一体となった養成・採用・研修の取組を推し進めるため、教職課程を有する県内全大学と教委、学校等で構成される「山口県教員養成等検討協議会」を設置し、高い志、意欲や実践的指導力をもち、自信と勇気をもって教壇に立てる教員を育てる体制づくりや取組が進められている。

また、本学、本学部においても、「地域密接型」教員養成学部としての役割や意義を再確認するとともに、今後は、特に山口県教員の養成とその資質能力の向上に向け、県教育委員会や地域と連携協働し一層の社会貢献を図るべく、学部改組、教職カリキュラム改善や本事業を取り込んだ教職大学院の設置等に向けた取組を始めているところである。

- ・ 若年教員段階（自立・向上期）においては、学校教育推進上の諸課題がますます高度化、多様化、複雑化する中で、積極的に児童生徒と関わりながら教育活動を行うことにより、学校全体に活力を与える役割が期待されている。このため、学習指導や生徒指導等を行う際に必要な基礎的な知識や技術を基盤とした実践的な指導力が求められている。

また、これまでは、同僚教員との協働実践、子どもや保護者等との関わりを通じて教員としての資質能力を向上させ、担任、学年主任、分掌主任等の経験を積み重ねる中でミドルリーダーとしての力量形成がなされて来た。しかし、主任や校務推進役として活動する機会に恵まれにくい現状や、教員年齢構成の推移により今後は次代の管理職候補とも言えるミドルリーダーも年齢的に下がると予想されることから、早い段階からリーダー的視点をもって取り組める人材を育成することが必要と考える。大学と教育委員会が連携・協働して、現職研修プログラムの改善、高度化を図り、先を見据えた計画的、継続的なミドルリーダー育成に取り組むことが必要である。

- ・ 次に、学校組織は、一般的に「ナベブタ」や「格子状」と称されることがある。年齢や指導力等の差、違いによらない横並び（水平コミュニケーション）を基本とする組織性と、1教員が学年・教科・校務分掌等にまたがり複数業務を兼任する態様を基本とした組織性が絡み合う組織である。校長・教頭等の管理職のマネジメント能力が問われることは論を待たないが、同時に、自ら学級担任、教科担任として勤務しながら、学年、校務分掌や教科部会等をリードし、年齢、指導力や学年、分掌等を乗り越えての「コーディネーター」や「アドバイザー」として生き生きと働くミドルリーダーの存在が極めて大きい。ミドルリーダーには組織運営や学校経営につながる基礎知識や技能の修得、組織内の連絡調整や他の教職員に対する指導助言等についての能力が必要である。学校全体のマネジメントを意識し、人材育成の視点をもって組織経営や分掌運営にあたるミドルリーダーの育成が今後の学校経営・運営のカギを握る。
- ・ 最後に、ミドルリーダーの育成は、広域（全県域等）で進めるべきと指摘する。各学校には、例えば生徒指導困難校には生徒指導面を中心とした指導の力点があるように、各学校の現状と課題に基づく重点課題がある。ミドルリーダーも重点課題を中心とした実践経験が中心となり偏りがちである。ミドルリーダーは広く「学校づくり」の核となる存在であり、各学校の違いを共有し、それぞれの困難の克服を究め合う中で実践力等を磨く必要がある。

(2) これまでの取組と連携・協働の状況等

- ・ 本学部は、平成17年度以降、「ちゃぶ台」方式による協働型教職研修計画（ちゃぶ台プログラム）として、教職志望学生・大学教員・現職教員・教育行政担当者・教育関係者等との協働による「地域協働型教職研修」「省察・個別的支援型ちゃぶ台研修交流」「成果集積・共有型機能整備」に取組み、教員養成・教員研修事業の活性化を図ってきた。
- ・ また、平成21・22年度には、（独）教員研修センター「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」において、「若年教員と教職志望学生がちゃぶ台方式でつくる協働型教員研修モデル」を開発し、教職志望学生と現職教員が時と場を共有し、協働して相互の課題解決に取り組むプログラムを提案する等、本学と教育委員会が連携した教員養成・教員研修の充実深

化に努めてきた。この取組はその後にも継続拡充し、本年度登録会員は120名を数え、現職教員は1都1府5県から、学生は7大学から参加するプログラムに発展している。日本教育大学協会研究集会等での実践発表や視察等も多数を受け、本学の取組を元にした教員研修プログラムを開始した所もある。

- ・ 本学部と山口県教育委員会、山口市教育委員会は、平成17年12月に「山口大学教育学部・山口県教育委員会、山口市教育委員会の教育連携推進協議会要綱」を定め、教員養成・研修にかかる協議会の設置、各機関の実施事業報告、次年度協働事業の計画等を協議してきた。また、人事交流面でも小中学校教員の採用（「交流人事教員」）が進み、平成18年度からは助教授（現教授）派遣、平成20年度からは2名派遣に進展している。日常的な協議や情報交換も積極的に行われており大変良好な関係にある。

(3) 開発プログラムの目的と研修内容・方法等

- ・ 本プログラムでは、正規教員経験3年目から10年目頃までの教員による相互研修組織（ちゃぶ台次世代コーホート advanced course）を設立し、大学教員、県教委・市教委等職員や教育関係者等との協働のもとで、個々の教育実践、成果や課題の共有と省察、教えあい、学びあいや、学校現場での実地研修、大学教員と協働した課題研修等を通じて、ミドルリーダーとしての資質能力の獲得、教職実践課題の解決力、省察力の醸成を図ることを目的とし、以下のプログラムに取り組んできた。

① インタビュー等の実施

本プログラムでは、ミドルリーダーの現状やミドルリーダーに求められる資質能力等についてインタビュー等を行い、協議会等を通じて情報提供や提案等を行う。

② 「ちゃぶ台次世代コーホート advanced course」の実施

現在取り組んでいる「ちゃぶ台次世代コーホート」の成果を生かし、新たにミドルリーダー育成に特化した研修組織「ちゃぶ台次世代コーホート advanced course」を開設する。その際、研修対象者等を以下のように整理、分離し両組織間の協力体制を構築する。

「ちゃぶ台次世代コーホート advanced course」

研修対象者：正規採用（本務）教員経験3年目頃～10年目頃までの者等

「ちゃぶ台次世代コーホート」

研修対象者：教職志望学生、臨時的任用教員、正規採用（本務）教員経験およそ3年程度までの者等

- ・ 研修プログラムは3つの課題別研修で構成される。

① 「課題研修A・B」

受講者が、日々の教育実践や学校運営を振り返り、「目指す学校像」や「求める教員像」等と関連づけられた研修課題や実践事例等を持ちより、自主的・自発的・連带的にミドルリーダーへの道を歩む研修を行う。研修会では、次回の研修課題を受講者相互の協議で決定し、実践事例や現状分析等を行ってくる。（課題研修A：要求課題）

ミドルリーダーとして身につけるべき研修課題について、実行委員会や運営委員会等から提示し課題研修を行う。（課題研修B：必要課題）

② 「実地指導研修（学校現場での課題研修、協働実践を含む）」

指導助言力や表現力等の向上に資するとともに、自らの教育実践や研修成果を開示・提供しながら「教えることにより学ぶ」研修を行う。分掌主任の擬似的体験や「ちゃぶ台次世代コーホート」を活用した若年教員への指導助言体験等を行う。

学校現場での実地研修や大学教員等との協働による課題研修、協働実践等を行う中で、課題解決に向けた実践的指導力やリーダー性の向上を図る。

③ 「ピア・サポート」

受講者同士が、各個の体験等に基づき、学習指導、生徒指導、学校運営、分掌経営や現代的諸課題等の教育実践上の悩みや不安、成功・失敗体験事例等について自己開示し、課題や問題点の共感的理解、課題解決に向けた協議や意見交換等を図り、「同じ世代の教職仲間（コーホ

ート) 」としての連帯感を深め、人間関係やネットワークづくりを行う。

- ・ 「課題研修B」の設定にあたっては、山口県の学校教育等が有する現代的課題（山口県課題）の現状と課題、分析や解決に向けた提案等を積極的に取り上げ、地域密着型の課題研修プログラムとして展開した。
- ・ 本プログラムは、学校教員を対象に実施することから、原則的に土曜日に実施した。
- ・ 本プログラムへの参加困難な教員や県内外の学校・教育関係者等への情報提供と個別研修の充実を図るため、WEB（e-ちゃぶ）を通じて本事業の成果の閲覧を可能とした。

2. 開発の方法と開発・推進の組織

(1) 本学部の特徴ある取組「ちゃぶ台方式」との関わり

- ・ 本学教育学部は、平成17年度以降「ちゃぶ台方式による協働型教職研修計画」として、教職志望学生・大学教員・現職教員・教育行政担当者・教育関係者等との協働による「地域協働型教職研修」「省察・個別的支援型研修交流」「成果集積・共有型機能整備」に取り組み、「考える力を持ち、教員としての学びができる学生」の育成を柱とする教員養成事業の活性化を図ってきた。
- ・ 今日、学校をはじめとした教育現場には様々な現代的教育課題が山積しており、これらの課題に適切に対応できる教員が求められている。しかし、その養成や資質能力の向上は、大学のみで達成されるものではなく、学生、大学教員、現職教員、教育行政関係者や保護者等多くの者の協働によるより広くより深い学びの保障が必要となる。その中では、これらの関係者は教える者と教えられる者という一方的関係でなく、互いに研鑽し合う関係であるべきである。上座・下座のない丸い「ちゃぶ台」を囲むように、互いの学びを深め合い共有する場と機会を創りたい。本学部は、この理念「ちゃぶ台方式」による協働型教職研修事業「ちゃぶ台プログラム」に取り組んでおり、本プログラムのその一つとして実施した。

<p>「ちゃぶ台(方式教職研修計画)」とは</p> <p>平成17・18年度 大学・大学院における教員養成推進プログラム(教員養成GP)</p> <p>教職志望学生の自発的な実践意欲を尊重し、それを支援する教育システムを整備することにより、教員養成教育の活性化を図る。</p> <p>学生たちに、子どもや現職教員ならびに地域住民等と関わる地域協働体験の場を提供するとともに、それらに自発的に参加した学生たちに、自らの体験を「振り返る機会」や「個別的な教育支援」を与える体制を整備する。</p> <p>目的</p> <p>学生、大学・現職教員、教育機関担当者や地域の教育関係者等が、それぞれの立場から、或いは立場を越えて協働し、様々な教職実践(体験や活動)と省察を行うこととおして、学校教育や教育事象の具体的な理解を進めるとともに、課題解決能力やコミュニケーション能力など「教員に必要な資質能力であるがマニュアル化できない実践的能力」を向上させようとする教員養成・研修システム。</p> 	<p>「ちゃぶ台」の魅力を生かして</p> <p>「ちゃぶ台」 = 古き良き... この国が誇る... 卓 = 学びの舞台</p> <p>90cmの丸い「ちゃぶ台」がもつ 程よい距離感 を生かして</p> <p>対等、親密な関係で (上も下も無く、腹を割って)</p> <p>温かく、和やかな雰囲気の中で (連帯的な関係)</p> <p>個人の経験や学びを生かし (実践・省察と理論をつなぐ)</p> <p>様々な人たちと関わり、共有し (協働をととした高めあい)</p> <p>教職の志や、教員として生きて働く力の向上につなぐ (体験し、振り返り、考え、次のステップにつなげられる力)</p> <p>緩くつながりながらも豊かな学びの舞台(ちゃぶ台)で、実践と理論をつなぎ、教員としての資質能力を高めるとともに、生涯にわたって「学び続ける教員」を育てる。</p> 
<p>「ちゃぶ台」方式(ちゃぶ台プログラム)では</p> <p>教育連携推進会議(教育学部・山口県教委・山口市教委)のもとで</p> <p>学校等 地域等</p> <p>地域協働型教職研修 省察・共有・蓄積と個別支援</p> <p>大学生 大学教員 教委担当者 保護者 関係団体・機関関係者</p> <p>子ども 学校教員 卒業生 専門家・研究者 教育関係者 地域住民</p> <p>協働 連携</p> <p>研修会 省察 教職相談</p> <p>学校教育・教育事象の理解 実践的指導力 問題解決力・省察力</p> <p>子ども理解 学問探究力 同僚性</p> 	<p>「ちゃぶ台(方式教職研修計画)」とは</p> <p>実践・省察と理論をつなぐ主体的取組 + 相互に高めあう多様な連携・協働</p> <p>それぞれの立場を超えた連携・協働</p> <p>大学 学校 教育 教育関係団体 教育関係機関</p> <p>実践 省察 理論化 実践 省察 理論化 実践 省察 理論化</p> <p>学生 OBOG 子ども 保護者 地域住民 協力者 関係者</p> <p>互いに学びあい高めあう豊かな関係</p> 

(2)開発・推進組織づくりの考え方と構成

- 本プログラムの開発、推進にあたっては、本学教育学部・山口県教育委員会・山口市教育委員会にて構成する既存組織「教育連携推進協議会」のもとに、大学（教員養成・教員研修事業担当チーム）教員、山口県教育委員会・山口市教育委員会（教員研修事業等担当課）担当者で構成する「実行委員会」を組織し、基本方針、企画検討や評価等を行った。

また、各プログラムや個別の研修行事の企画運営は「運営委員会」が担当することとし、大学教員と「受講生代表」が山口県教育委員会・山口市教育委員会担当者の協力や助言を得ながら計画、準備、運営や評価等を行った。

「実行委員会」は年間3回、「運営委員会」は各研修プログラムの計画、準備や運営等の作業が中心となることから、各プログラム前に実施することとした。「運営委員会」には現職教員がおり、校務等と重なる場合は、電話連絡やメール交換等で進めた。

推進組織の構成、担当・役割分担等は次のとおりである。

「実行委員会」

	所属・職名	氏名	担当・役割	備考
1	山口県教育庁 教職員課・課長	廣川 晋	事業検討、講師派遣、各種調査、資料収集	
2	山口市教育委員会 学校教育課・課長	江山 稔	事業検討、講師派遣、各種調査、資料収集	
3	教育学部・教授	松田 信夫	事業総括	副学部長
4	教育学部・教授	霜川 正幸	事業総括（主務者）	実務家教員
5	教育学部・准教授	静屋 智	事業総括	交流人事教員

「運営委員会」

	所属・職名	氏名	担当・役割	備考
1	山口県教育庁教職員課 人事企画班・主査	山本 弦	事業検討、講師派遣、各種調査、資料収集	教員研修等担当
2	やまぐち総合教育支援センター企画室・研究指導主事	山縣 佳洋	事業検討、講師派遣、各種調査、資料収集	教員研修センター担当
3	山口市教育委員会学校教育課・副参事	岡本 壽之	事業検討、講師派遣、各種調査、資料収集	教員研修等担当
4	教育学部・教授	霜川 正幸	事業総括（主務者）	実務家教員
5	教育学部・教授	佐々木 司	事業計画・運営	人間教育学
6	教育学部・教授	中田 充	事業計画・運営	表現情報処理
7	教育学部・准教授	松本 清治	事業協力	交流人事教員
8	教育学部・講師	藤上 真弓	事業協力	実践センター
9	受講者代表	末 永和 弘	プログラム計画、運営協力	
10	受講者代表	黒川 真美	プログラム計画、運営協力	

- ・本プログラムの開発や推進の体制は、「ちゃぶ台次世代コーホート」の経験から、「実行委員会」が基本方針、企画検討や評価等を行い、「実行委員会」構成団体担当者に受講者代表を加えた「運営委員会」が各研修プログラムの企画運営等を行う形式を採用した。受講者代表を参画させることにより、受講者自らが主体的にプログラムを開発したり、研修行事の企画、準備、運営や評価等に参画することができプログラムの活性化に大いに効果があった。
- ・「実行委員会」は年間6回、「運営委員会」は各研修プログラムの前後に実施した。「運営委員会」に現職教員がいることから、毎回の研修プログラム終了後に行う「交流研修会」の場での意見交換やメール協議等を中心に進めた。

(3) 「実行委員会」、「運営委員会」等、大学と教育委員会の連携の実際

「実行委員会」の実施状況

- ①第1回 平成26年3月25日（火） ～「教育連携推進協議会」に合わせて実施～
- 参加者 山口県教育委員会（審議監、教職員課長、義務教育課長、教員研修担当者）
 山口市教育委員会（学校教育課長、副参事）
 山口大学教育学部（学部長、副学部長、事務長、事業担当者、交流人事教員）
- 内 容 ・採択連絡を受け、プログラム（事業）方針、計画や推進体制等についての大学提案と協議
 ・教員養成・採用・研修や大学・県教委・市教委の連携等にかかる意見・情報交換等
- ②第2回 平成26年7月15日（火） ～「山口県教員養成等検討協議会」に合わせて実施～
- 参加者 山口県教育委員会（教育次長、審議監、教職員課長、関係各課班長、担当者等）
 山口市教育委員会（学校教育課前課長、小学校長代表）
 山口大学教育学部（学部長、副学部長、事務長、研修事業担当者、事業担当者）
- 内 容 ・プログラム（事業）の方針、計画や推進体制等についての提案、計画や進捗等報告
 ・教員養成・採用・研修や大学・県教委・市教委の連携等にかかる意見・情報交換等
- ③第3回 平成26年9月16日（火） ～「山口県教員養成等検討協議会」に合わせて実施～
- 参加者 山口県教育委員会（教育次長、審議監、教職員課長、関係各課班長、担当者等）
 山口市教育委員会（学校教育前課長、小学校長代表）
 山口大学教育学部（学部長、副学部長、事務長、研修事業担当者、事業担当者）
- 内 容 ・プログラム（事業）の進捗状況、課題と今後の方向等について報告、意見交換等
 ・教員養成・採用・研修や大学・県教委・市教委の連携等にかかる意見・情報交換等
- ④第4回 平成27年1月29日（木） ～「山口県教員養成等検討協議会」に合わせて実施～
- 参加者 山口県教育委員会（教育次長、審議監、教職員課長、関係各課班長、担当者等）
 山口市教育委員会（学校教育前課長、小学校長代表）
 山口大学教育学部（学部長、副学部長、事務長、研修事業担当者、事業担当者）
- 内 容 ・プログラム（事業）全体の報告（成果と課題等）、来年度計画に関する協議等
 ・教員養成・採用・研修や大学・県教委・市教委の連携等にかかる意見・情報交換等
- ⑤第5回 平成27年2月4日（木） ～「山口県教員養成等検討協議会フォーラム」後に実施～
- 参加者 山口県教育委員会（教育次長、審議監、教職員課長等）
 山口市教育委員会（教育長、学校教育課長）
 山口大学教育学部（学部長、副学部長等）
- 内 容 ・ミドルリーダー養成、教職大学院の在り方、山口県の養成・研修事業との相乗等に関する協議、意見交換

- ⑥第6回 平成27年3月24日（火） ～「教育連携推進協議会」に合わせて実施～
参加者 山口県教育委員会（教育次長、教職員課長、義務教育課長、教員研修担当者）
山口市教育委員会（学校教育課長、副参事）
山口大学教育学部（学部長、副学部長、事務長、事業担当者、交流人事教員）
内 容 ・プログラム（事業）の総括（事業評価、成果と課題）と来年度計画に関する協議等
・教員養成・採用・研修や大学・県教委・市教委の連携等にかかる意見・情報交換等

「運営委員会」の実施状況

- ①第1回 平成26年5月19日（月）
参加者 山口県教育委員会（教職員課教育調整監、主幹、管理主事）
山口市教育委員会（学校教育課長、副参事：市教委会議室にて個別協議）
山口大学教育学部（事業担当者、交流人事教員）
内 容 ・山口大学と山口県・山口市との連携協力事業にかかる内容、体制等についての協議
・プログラムの推進体制、研修内容・方法、対象受講者等に関する協議等
- ②第2回 平成26年6月2日（月）
参加者 山口県教育委員会（教職員課教育調整監、主幹、管理主事）
山口市教育委員会（副参事）
山口大学教育学部（事業担当者、交流人事教員）
内 容 ・プログラムの運営組織、研修計画に関する協議等
- ③第3回 平成26年7月2日（水）
参加者 山口県教育委員会（主幹、管理主事）
山口市教育委員会（副参事：市教委会議室にて個別協議）
山口大学教育学部（事業担当者）
内 容 ・市町教委、県内学校への広報・推薦依頼や今後の連携に関する協議、打合せ等
・ウェブページ配信や大学間連携等に関する協議と講師データの交換等
- ④第4回 平成26年8月28日（木）
参加者 山口県教育委員会（教職員課教育調整監、主幹、管理主事）
山口市教育委員会（学校教育課長）
山口大学教育学部（事業担当者、交流人事教員）
内 容 ・ミドルリーダー養成、山口県の養成・研修事業との相乗等に関する協議、意見交換
・プログラムの推進に関する協議（第1回総括と第2・3回打合せ）等
- ⑤第5回 平成26年12月4日（木）
参加者 山口市教育委員会（指導担当指導主事）
山口大学教育学部（事業担当者）
内 容 ・人材育成、ミドルリーダー養成、山口市の養成・研修事業との相乗等に関する協議、意見交換
・プログラムの推進に関する協議（第3～5回総括と第6～8回打合せ）等
- ⑥第6回 平成27年2月4日（木） ～「山口県教員養成等検討協議会フォーラム」後に実施～
参加者 山口県教育委員会（教職員課事業担当者）
山口市教育委員会（学校教育課指導主事）
山口大学教育学部（事業担当者、交流人事教員等）
内 容 ・ミドルリーダー養成、教職大学院の在り方、研修事業の工夫改善に関する協議等

- ⑥第7回 平成27年2月9日（月）
 参加者 山口県教育委員会（教職員課教育調整監、主幹、管理主事）
 山口大学教育学部（事業担当者、交流人事教員）
 内 容 ・事業（第9回以降）の計画案や連携強化に向けた協議
 ・学校体験プログラムや現職教員研修の在り方に関する意見・情報交換

- ⑦第8回 平成27年3月11日（水）
 参加者 山口県教育委員会（教職員課事業担当者）
 山口市教育委員会（学校教育課長、副参事、指導主事）
 山口大学教育学部（事業担当者、交流人事教員等）
 内 容 ・事業総括、評価と今後の教員養成・採用・研修のあり方にかかる協議、意見交換
 ・次年度の事業方針、企画・運営等にかかる意見・情報交換等

「その他の連携の状況」

- ①山口県・山口市教育委員会より
- ・運営スタッフ会議（学部スタッフ、受講者代表で随時開催）への助言、支援
 - ・山口県教育委員会発行「山口県教育関係人材データベース」（県内の学校・大学等在籍講師リスト）の提供
 - ・毎回の研修行事への出席と場での指導助言
 - ・事業の広報、推奨にかかる支援（県教委ウェブページへの掲載、市町・学校への送付便やメールリストの優先使用）
 - ・県・市校長会や研修行事等での紹介、広報宣伝
 - ・県採用前研修会での紹介時間の確保
 - ・ミドルリーダー養成研修にかかる情報・資料の提供 等



山口県教育委員会ウェブサイト Other Languages 言語設定 白 文字サイズ 拡大 標準 縮小

最新から探す サイトマップ 検索 情報検索 問い合わせ 印刷 検索の仕方

トップページへ くらし環境 医療福祉 観光スポーツ しごと産業 魅力観光 行政情報

・トップページ > 最新から探す > 教育関連 > 教員養成・「ちやぶ白」を担む若年教員の「夢」をミドルリーダーとしての「志」につなぐ協働型教員研修モデル（ちやぶ白次世代コーホート advanced course）について

◎平成27年（2015年）2月 19日
◎ 教職員課

「ちやぶ白」を担む若年教員の「夢」をミドルリーダーとしての「志」につなぐ協働型教員研修モデル（ちやぶ白次世代コーホート advanced course）について

教育委員会と大学等が連携・協働し、教員の養成段階から教職生活全体を通じた学びを支援し、教員の資質能力の向上に努めることが求められています。特に、教育課題がますます高度化、複雑化する中で、今後の学校教育を中核となつて担う中堅教員（ミドルリーダー）の育成は重要な課題となっています。

本県では、教職員の人材養成の在り方について、養成、採用、研修、評価、人事異動等の各段階における検討を総合的に進めており、その一環として、本年度以降（平成26年度＝試行年度）、山口大学教育学部と連携し、若年教員を対象とした協働型教員研修事業に取り組みます。

事業、研修の概要 山口大学教育学部

1 事業名称
 「ちやぶ白」を担む若年教員の「夢」をミドルリーダーとしての「志」につなぐ協働型教員研修「ちやぶ白次世代コーホートアドバンスコース（advanced course）」

2 推進体制
 実施主体は山口大学教育学部ですが、山口大学教育学部、山口県教育委員会、山口市教育委員会が構成する「教育連携推進協議会」のもとに設置する「運営委員会」が中心となり、三者連携事業として推進します。

3 事業概要

山口県教育委員会ウェブページより

Ⅲ 開発の実際とその成果

1. 開発プログラムの広報周知と受講生の確保

(1) 広報周知の実際

- 本プログラムは、「学び続ける教師」を目指す若手現職教員が集い、大学や教育委員会等からも将来的ミドルリーダーとしての成長が期待される教員が集う現職教員研修プログラムとはいえ、あくまで自主的、自発的参加を原則としている。「参加できる時に、参加できる範囲や形で、自由に関わる」ことが前提であるため、プログラム自体を、いかに広め、興味関心や意欲を持たせ、「手弁当」で「自腹を切って」でも、週休日に山口に行くという行動につなげるかが重要である。

同時に、プログラムを運営する立場からは、ミドルリーダーとして成長するための「必要課題」や、山口県内の学校が有する現代的教育諸課題をふまえた「山口県課題」を中心に内容（カリキュラム）編成を行い、明確な目指すミドルリーダー像を描きながら、系統的・計画的に学ばせたいという思いが強い。

これらのことから、本プログラムのような教職キャリア形成上の職能開発課題に特化した研修プログラムの開発・推進においては、山口県教育委員会、山口市教育委員会との連携協力に頼るところが極めて大きく、実際に格段の支援、協力を得た。

- 山口県教育委員会（教職員課）は、プログラム構想段階から、全市町教育委員会教育長、全公立高等学校長に対し山口県教育委員会として本プログラムに関わる意義や構えを示し、研修プログラムの広報周知や推奨、各校種の校長会等での広報や協力依頼、山口県教育委員会（教職員課）ホームページへの掲載、「山口県教員養成等検討協議会」での事業や具体的な研修プログラムの説明や受講候補教員の推薦依頼等について多大な協力、支援を行った。

山口市教育委員会も、市立学校・園長会においてプログラム説明と受講候補教員に対する校長からの参加奨励、広報・登録チラシの配布や市内学校宛通送便の使用等の協力を行った。

「ちやぶ台」を囲む若年教員の「夢」をミドルリーダーとしての「志」につなぐ協働型教員研修モデル（「ちやぶ台」次世代コース advanced course）について

- 研修事業の名称**
「ちやぶ台」を囲む若年教員の「夢」をミドルリーダーとしての「志」につなぐ協働型教員研修「ちやぶ台」次世代コース アドバンスコース (advanced course)
※コースとは、「教職で繋がる同年代の奮闘する仲間たち」の意匠で使っている。
- 研修事業の目的**
若年教員が、相互研修組織「ちやぶ台」次世代コース advanced course」を設立し、大学教員、学校・教育関係者や教育委員会指導者等との協働のもとで、学校課題の解決に向けた教育実践と省察、共有、ピアサポート、学校等現場と連携した研修等を行うことにより、ミドルリーダーとしての実践能力の獲得、教職実践課題の解決力、省察力の醸成を図る。
- 研修推進体制**
実施主体は山口大学教育学部であるが、山口大学教育学部、山口県教育委員会、山口市教育委員会等で構成する「教育連携推進協議会」のもとに設置する「運営委員会」が中心となり、三者連携事業として推進する。
- 研修対象者、校種、人数等**
(1) 研修対象者と校種
小学校、中学校、高等学校に勤務する教員
教職経験（正規教員経験）3年～10年目までの教員
※本年度は試行年度であること。また、事業趣旨、研修会場、本年度の研修支援体制等の関係からこのとおりであるが、申込状況等により変更の可能性がある。
(2) 募集人数 10～15人
- 研修計画**
(1) 研修日程
第1回 平成26年 7月15日（土） 第2回 平成26年 8月30日（土）
第3回 平成26年10月4日（土） 第4回 平成26年12月27日（土）
第5回 平成27年 1月17日（土） 第6回 平成27年 2月15日（日）
第7回 平成27年 3月21日（土）
※第1・2回は13:30～17:30、第3～7回は9:30～17:30の予定である。
※その他、随時、任意参加の協働型教職研修行事や教育委員会等主催教員研修行事への参加案内を行う。
※第3～7回は、13:30～17:30に実施される「ちやぶ台」次世代コースへの「乗り入れ（合同）研修」を実施する。
(2) 研修会場
山口大学教育学部内「ちやぶ台ルーム」とするが、他会場開催の場合もある。
(3) 研修内容
① 課題研修 A・B
日々の教育実践と省察、課題分析や実践事例研究等を元にした主体的・自発的、連带的な研修をとおして、現場課題の解決に向けた研修を行う。（課題研修 A：要求課題）

「ミドルリーダーとして身につけるべき研修課題について、先修講師の招聘等による課題研修を行う。（課題研修 B：必要課題）

② 実地指導研修
指導的資力や表現力等の向上とともに、自らの教育実践や研修成果を展示・提供しながら「見えることにより学ぶ」研修を行う。
・学校現場と連携した実地研修や大学教員等との協働による課題研究や協議実践等を行う中で、課題解決に向けた実践的指導力やリーダー性の向上につながる研修を行う。

③ ピア・サポート
受講者同士が、各個人の体験等に基づき、教育実践上の悩みや不安、体験事例等について開示し、課題や問題点の共感的理解、課題解決に向けた協議等を行い、「同じ世代の教職仲間（コース）としての連帯的な研修を行う。

(4) 課題研修 A における現地研修について
本研修プログラムでは、受講者が学校課題の解明や解決に向けて取り組む日々の教育実践と省察を基本とする。大学教員や運営スタッフが学校を訪問し、参観、指導助言や研修支援等を行うことがある。

(5) 既存事業：若手教員と教職を目指す学生による協働型教職研修事業「ちやぶ台」次世代コースについて
本研修は、平成17年度以降、「ちやぶ台」方式による協働型教職研修計画（「ちやぶ台」プログラム）として、教職志望学生・大学教員・現職教員・教育行政担当者・教育関係者等との協働による教員養成、教員研修事業に取り組んできた。
特に、平成19年度からは山口県教育委員会、山口市教育委員会と連携し、若年教員と教職志望学生が「ちやぶ台」方式でつくる協働型教職研修事業「ちやぶ台」次世代コース」に取り組み、教職志望学生と現職教員をつなぐ教員養成・教員研修事業を展開している。
本事業は、「ちやぶ台」方式を活かし、従来事業の発展型として実施するものである。

各市町教育委員会、高等学校宛「事業広報資料」

- 大学は、教育学部ホームページでの広報周知を行うとともに、「ちやぶ台次世代コーホート」受講生が移行する可能性もあったことから、同プログラムを受講する現職教員に対し情報提供を行い、プログラムへの参加を呼びかけた。



大学教育学部ホームページでの広報

【山口大学教育学部からのお知らせ】

「ちやぶ台」を囲む若年教員の「夢」をミドルリーダーとしての「志」につなぐ協働型教員研修モデル「ちやぶ台次世代コーホート advanced course」について

久い「ちやぶ台」には上層も下層もありません。あるのは、顔をあわせ、お互いを惹きながら語りあえる平んな距離、教員もできれば講師もできる90cmの「ちやぶ台」。そして...人の「わ」「隔」「輪」「和」。

そんな「ちやぶ台」を、皆さんのような若い世代の教員だけでなく、様々な人たちが囲みます。大学教員、学校教職員、専門家、教育委員会指導者や多様な教育関係者などが、非営利の学校現場での実践と省察、学校課題の解明や解決に向けた提案等について、「ちやぶ台」を囲み深めていきます。相互に刺激し、関係性、連帯的な空気の中で、立場を超えた「協働」と「共育」を味わっています。

本年度から、教職経験（本採用教員）3年以上の教員を対象としたミドルリーダー養成研修「ちやぶ台次世代コーホート Advanced course」を実施します。

7月末から翌年3月までを1サイクルとして行いますが、研修の中心には、皆さんの自らの学校での教育実践と省察（本学教員が学校を訪問しての研修も含まれます）による課題解決力や教員力の向上があります。そして、協働の研修会を山口大学教育学部「ちやぶ台ルーム」を会場にして、講義演習、課題研究、実践事例発表や交流行事などを行います。6回のうち3回は、教職志望学生と若手教員たちの合同研修「ちやぶ台次世代コーホート」に乗り入れ協働型研修を行う予定です。研修会は、現場教員による研修行事なので休日も開催となりますが、様々な教育課題の解明や解決に向けた学びの場として、若手教員との高めあいやネットワークづくりの場として積極的にご参加ください。時代が求める「学び続ける教員」をめざして、一緒に頑張りたい。

研修会の内容等

①課題研修A・B

- 日々の教育実践と省察、課題分析や実践事例研究等を行い、現場課題の解明に向けた研修を行います。（課題研修A：要求課題）
- ミドルリーダーとして身に付けるべき研修課題について、外部講師の招請等による課題研修を行います。（課題研修B：必要課題）

②実践型研修

- 指導力向上や実践力の向上も意識して、自らの教育実践や研修成果を展示・提供しながら「教えること」により学ぶ研修を行います。
- 学校現場と連携した実践研修や大学教員等との協働による課題研究や実践発表等を行う中で、課題解決に向けた実践的指導力やリーダー性向上につながる研修を行います。

③ピア・サポート

- 受講者同士が、日頃の体験等に基づき、悩みや不安、課題等を提示し、課題や疑問点の共感的理解、課題解決に向けた提案等を行います。「同じ世代の教員仲間」としての連帯的な研修を行います。

プログラム名にある「コーホート」とは「同じ志でつながる同年代の仲間たち」という意味です。「コーホート仲読」になりませんか。お持ちしています。

まずは、事務所に参加申込をしてください。受講が決定した方には、事務所より、メール・郵送にて行幕案内や次回の研修テーマ（課題）等をお届けします。

応募者多数の場合は、経験年数や校種等により優先にそえない場合がありますので申し上げます。

申込等は以下のとおりです。

(1) 登録いただく内容
「ちやぶ台次世代コーホート Advanced course 登録用紙」（以下の様式）になります。

(2) 登録期間
第1次登録期間の締切は、平成26年7月11日（金）とします。

(3) 登録方法

①郵送の場合
・登録用紙（以下の様式）に御記入の上、次の宛先まで郵送ください。
〒753-8613 山口市吉田1677-1 山口大学教育学部（廣川正幸研究室）
「ちやぶ台次世代コーホート Advanced course 事務局」にて

②メールの場合
・登録用紙に指定された内容を添付してください。（添付ファイル列）
送信先 mshiac@yamaguchi-u.ac.jp
送信には、「アドバンスコース研修申込み」と御記入ください。
・登録後は、上記アドレスよりメール対応いたします。インターネットからの受信に依存するドメイン指定等をお断りいたします。

※事務所より、「研修テーマ（課題）」等を添付ファイルで送信することがあります。添付ファイルが受け取れるPC等のアドレス登録に御協力ください。

様式1 「ちやぶ台次世代コーホート Advanced course 登録用紙」

- 氏名
- 住所（〒）
- 電話番号（連絡のつきやすいもの）
- E-mailアドレス（ていねいにはっきりとご記入ください）
- 所属情報等
①学校名
②職名
③教職経験年数（本採用教員○年目、臨時任用教員経験○年）
- その他、連絡事項等がございましたらお書きください。

「ちやぶ台次世代コーホート」受講生宛「広報・登録用紙」

- 本プログラムの広報周知では、プログラム開発の意義や目的を明確に示すとともに、対象となる正規教員経験3～10年程度の教員の置かれた状況や教職キャリア形成や職能発達にかかる課題等をふまえて、自主的・自発的な研修意欲・態度や教育諸課題への興味関心を誘発する働きかけとなるよう配慮した。
- また、「ちやぶ台プログラム」の特長を前面に出すことに努め、受講生や大学教員、教育機関担当者や地域の教育関係者等が、それぞれの立場から、或いは立場を越えて協働し、様々な教職実践の開示・共有と省察により、学校教育や教育事象の具体的な理解と、課題解決能力やコミュニケーション能力等の実践的能力を向上させるスタイルであること、「コーホート」に象徴される同年代の教職仲間の連帯性と関係性を重視することを、広報宣伝資料や各種チラシ等に掲載した。

(2)受講者確保の実際

- プログラムの計画当初は15人を予定したが、本年度は14人の登録（参加）が得られた。
- 勤務校の校長から受講を勧められ参加した者が6人（高等学校6人）、「ちゃぶ台次世代コーホート」から移行した者が8人（小学校5、中学校2、高等学校1）であった。
校長から勧められ参加した高等学校の6人は、正規採用前に「臨時的任用教員」として勤務していた者、他県の民間企業等で勤務していた者が多く、年齢的にも「中堅」の域にある。生徒指導部主任や進路指導部主任として業務に就いている者もあり、「自ら主体的に学ぶ研修の必要性を大いに感じていた」と述べているが、現実には校内での研修機会の乏しさ、講義受講が中心で主体的参加となりにくい研修スタイル、徒弟的（OJT型）研修の未成熟や校外研修に参加しづらい日常業務の多忙さ等から機を逸していたと言う。若年教員の研修意欲や研修ニーズはかなり高いと思われ、プログラムの適宜性と拡充の必要性を理解できた。
- 小中学校でも校長からの広報周知や参加の奨励、山口県教育委員会や本学部ホームページからの情報収集、教職研修会等での広報宣伝等がなされたと考えるが、参加に繋がらなかった要因として、週休日（土曜日）開講による学校行事や部活動との重なりが指摘できる。県内には、既に月1回程度の「土曜日授業」を開始した市町、学校行事を地域行事化して土曜日に実施する学校やコミュニティ・スクール（学校運営協議会）の拡大に伴う土曜日活用の変化等が見られる。また、部活動や中学校体育連盟行事等とのバッティングも多く、「参加したいが物理的に難しい」との声も届いている。行政研修との相乗、共存を目指す本プログラムではあるが、運営の在り方について今後検討していきたい。
- 受講者の男女比は男性9人、女性5人となり男性が上回った。本学部や附属教育実践総合センターが主催する教職研修プログラムや「ちゃぶ台次世代コーホート」等では、女性の受講者が圧倒的に多く、研修に対する意欲の「女高男低」が顕著であるが本プログラムでは逆転している。受講者の反応からは、ミドルリーダーや管理職に向かおうとする意識と研修を求める意欲に関する対象世代の男女差、結婚による家事労働を女性が担うケースの多さと研修時間の不足等が聞かれる。男女共同参画やジェンダーフリーに関する課題も今後の研修において取り組む必要を感じさせる。
- 「ちゃぶ台次世代コーホート」から移行した受講者の意識については、同プログラムに学生や「臨時的任用教員」時代から参加していた者が多く研修内容や方法に「マンネリ」を感じ始めていたこと、教職経験を重ねる中で教育事象や指導に関する「学び直し」や「捉え直し」が必要と感じていたこと、噴出する教育諸課題を考え指導の在り方を追求する中で「新たな学び」を求めていること等の指摘が多かった。教職志望学生・臨時的任用教員・初任から教員経験3～5年程度の正規教員による「教育指導や教育実践の基礎固め」の段階を経て本プログラムに参加し、ミドルリーダー教員としての資質能力を高めようとする学びの流れは、教職キャリア形成や職能発達段階に応じた適切な支援であると認識できた。

番号	県名	校種	性別	住 所	所 属	職名	年目
1	広島	小	男	広島県東広島市	広島県神石高原町立三和小学校	教諭	8
2	広島	小	男	広島県三原市	広島県三原市立田野浦小学校	教諭	8
3	山口	小	女	山口県防府市	山口県防府市立華浦小学校	教諭	7
4	山口	高校	男	山口県下関市	山口県立西市高等学校	教諭	7
5	山口	小	男	山口県防府市	山口県防府市立華城小学校	教諭	6
6	山口	高校	男	山口県下松市	山口県立華陵高等学校	教諭	6
7	広島	高校	女	広島県福山市	広島県立大門高等学校	教諭	5
8	広島	高校	女	広島県府中市	広島県立大門高等学校	教諭	5
9	山口	高校	女	山口県宇部市	山口県立西市高等学校	教諭	4
10	山口	高校	男	山口県山陽小野田市	山口県立厚狹高等学校	教諭	4
11	山口	中	男	山口県山口市	山口県山陽小野田市立高千帆中学校	教諭	4
12	山口	中	男	山口県山口市	山口大学教育学部附属山口中学校	教諭	4
13	山口	小	男	山口県下関市	山口県下関市立蓋井小学校	教諭	3
14	山口	高校	女	山口県岩国市	山口県立岩国高等学校	教諭	3

平成26年度プログラム参加者一覧

2. 開発プログラムの実際（研修内容、講師や研修スタイルの具体）

- 以下、本プログラムにおいて展開した研修行事の具体を報告するが、各地の大学や教育委員会での実践や利活用に資するため、各研修行事等において作成・使用した資料等の一部について、後段「資料編」で報告・紹介することとし本項では概要を示す。

(1) 課題研修 A・B

第1回 平成26年7月19日（土）13：30～17：30

会場 山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」

目的

- ①若年教員が、学校課題の解決に向けた教育実践と省察、課題研修やピアサポート等を行うことにより、ミドルリーダーとしての資質能力の獲得や教職実践課題の解決力、省察力の醸成を図る。
- ②協働型教職研修の第1次行事であることをふまえ、今後の研修や実践等に対する意欲、態度や参画意識等の向上を図る。

内容

- ①講演「現在の学校における中堅教員、ミドルリーダーの役割」

講師 千葉大学教育学部 特任教授 土田 雄一 さん

- ②グループ演習「私の教職史 ～教職キャリア形成と目指すミドルリーダー像～」

指導者 千葉大学教育学部 特任教授 土田 雄一 さん

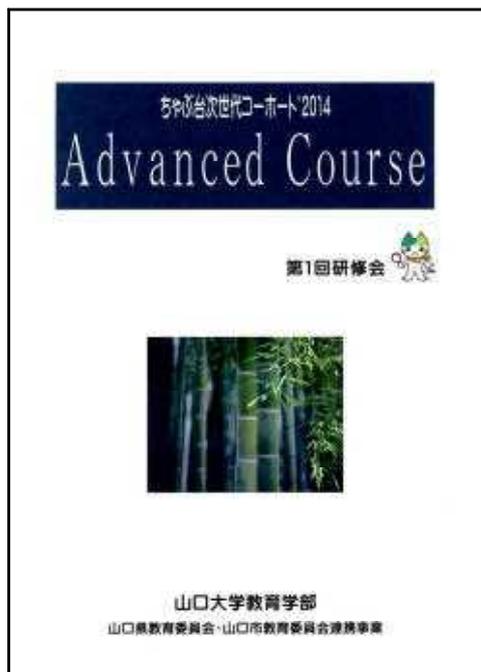
PG運営スタッフ

- ③研究協議「研究を進めるにあたって」

指導者 PG運営スタッフ

- ④ピア・サポート

参加者 受講者9人、指導者・スタッフ等10人 計19人



第1回「当日要項」表紙



第1回「コーホート Advanced Course 通信」

第2回 平成26年8月30日(土) 13:30~17:30

会場 山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」

目的

①第1回研修会と同目的

②学校課題の把握や解明に向けたマネジメント手法並びに学力向上に向けた先進実践の具体的理解等をとおして、中堅教員の役割や自らのあり方等について探求する。

内容

①講義演習「学校等の課題を明確にするために～現状を把握する方法～」

指導者 山口県光市立浅江中学校 校長 伊藤幸子さん

②講義演習「秋田の実力～学力向上の取組と中堅教員の役割～」

・秋田県教育委員会の学力向上への取組

指導者 秋田大学教育文化学部附属中学校 副校長 田仲誠祐さん

(元秋田県教育庁義務教育課学力向上班長)

・秋田県内の地域や学校での取組

指導者 秋田大学教育文化学部 フェロー 茂木達彦さん

(元秋田県教育庁中央教育事務所長)

・施策評価、今後の展望や今後の教員養成・教員研修

指導者 秋田大学教育文化学部 センター長 神居隆さん

(前秋田県教育委員会教育次長)

③ピア・サポート

参加者 受講者12人、指導者・スタッフ等14人 計26人



「学校課題の解決と研究」シート

ちやぶ台世代コホート Advanced Course 通信

山口大学教育学部「ちゃぶ台方式教職研修会」

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム事務局

No.2 2014.8.31

ミドルリーダーは...何を考え、何をめざし、何をなすべきか!

「マネジメント」と「学力向上」で「ちゃぶ台」を囲んだ1日!

「まことまじ」に解けることもなく、いつのまにか「あらっ君!」を響かせる8頁20頁、ちやぶ台一泊にて第2回研修会を行いました。山口・庄島の職域教員(0~8年目)12人、プログラム見学・聴講希望の県教委大(教職大学院)在学履修教員4人、山口市教委関係者1人、専従大学教員1人、大学教職員4人が集い、全国の指導者4人を擁んだレベルの高い研修会、ご参加ありがとうございました。

講義演習 山口県光市立浅江中学校 校長 伊藤幸子さん

担任・行政経験が豊富で学校(組織)マネジメントにも精通していらっしゃる伊藤先生、「学校等の課題を明確にするために」をテーマに、ミドルに向かう受講生が、今改めて自分の学校の外部環境(社会と学校)と内部環境(他者と自分)を捉え、特色ある教育活動を生み出す上には「SWOT分析」を用いた演習+ミドルのあり方について講義をして下さいました。また自分のこと(学校、教科、分掌等)で格一担が本場のところ、多面的・多面的な視座を持つための「一度むける研修」となりました。伊藤先生、ありがとうございました。

ありがとうございました!(受講者の感想から)

「SWOT分析」により外部環境を書き出そうとすると、やはりまだ自分の学校のことをよく知らない!と感じる。学校を取り巻く環境=生徒の生活・学習環境だと思つたので、もっと自分の学校を知りたいと思う。

実際にやってみて、外部・内部+進み・留みの視点から「客観的に分析すると、何となく視野が広がったような気分になりました。今まで内部ばかりに目を向けていたことに反省!」(研修会全体の感想)皆さんキラキラしていてワクワクします。「ちゃぶ台」最高! 学生時代みたいに学んできたからできてスリキキ!

若手~ミドルの教員が、学校改善に向けて当事者意識をもつことが重要であることを再認識しました。SWOT分析の視点を学校経営にも生かしていけると良いと思います。

講義・先達事例報告 秋田大学教育文化学部 神居 隆さん、茂木達彦さん、秋田大学教育文化学部附属中学校 田仲誠祐さん

伊藤先生「学力の秋田」を創ってこられた3人の先生方の実践、即 秋田県教職研修会として仕掛けてこられた神居先生、教育事務所長や中学校長として伸ばしてこられた茂木先生、教育庁高等教育課学方向上班長として分掌・事業建てを命じられてきた田仲誠祐先生、本当に「道があるご講演」、「相関な解釈と明快な論理」、本当に勉強になりました。受講生だけでなく、大学スタッフや聴講生等によっても、支那した学習機会となりました。はるばる秋田から来ていただいた3人の先生方、ありがとうございました。またのご来臨・ご来学をお待ちしております!

ありがとうございました!(受講者の感想から)

果敢とやるべきことをやっていたら、生徒の力をつける。伸ばすことは可能だと思った。様々な取組や事業をやっている、やるだけではだめで、きちんと検証をして、データ等を活用しない、ただやるだけの発想だけが得ると感じる。その部分から大切。

行政レベルの取組を聞くことができ勉強になりました。一朝ごとでなく「長い目で長いスパンで」子ども達の成長を見守るためには、「育てていくためには」先考えたいです。

学力向上に向けて、組織的な取組、学校内の協働性や学校間の連携協働が高いことが、成果を出していることの要因の一つかなと思います。

※次回は10月4日は午前開催(9:30~12:30)です。午後は「ちやぶ台世代コホート」研修会に乗り入れる予定です。

第2回「コホート Advanced Course 通信」

第6回 平成26年12月27日（土）9：30～12：30

会 場 山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」、22番教室

目 的

①第1回研修会と同目的

②特別支援教育、インクルーシブ教育や不登校児童生徒の支援等の現状、課題や今後のあり方等に関する研修や、個人研究課題の解決に向けた研究協議等を行うことをとおして、中堅教員の役割や自らのあり方等について探求する。

内 容

①講義演習「今後の特別支援教育や不登校児童生徒支援等に求められるもの」

指導者 福井大学大学院教育学研究科教職開発専攻 教授 松 木 健 一 さん

②課題研究「個人研究課題の設定と課題解決に向けた今後の取組」

受講者による発表（研究課題の設定、課題の把握と実践の経過等）

受講者とスタッフ（大学教員等）による研究協議、計画立て等

③ピア・サポート

参加者 受講者11人、講師・スタッフ等16人 計27人



課題研究「課題研究（個人研究）」

課題を設定・解決できた際の具体的なイメージ（課題設定・実践の経過、学習・指導、評価等を含めて）

課題の主題・解決に向けて実践する具体的な内容、進捗率（目標の達成）、学習指導等を記入する

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫

上で挙げた各課題・実践等、内容、目的や進捗率により、又別紙として記入する

別紙1
別紙2
別紙3

福井大学大学院教育学研究科

課題研究「課題研究（個人研究）」

実践の経過（課題設定・実践の経過、学習・指導、評価等を含めて）

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫

福井大学大学院教育学研究科

ちゃぶ台夜間セミナー Advanced Course 通信
山口大学教育学部(ちゃぶ台方式教職研修部)
教員研修モデルカリキュラム開発プログラム事務局
No.4 2015.1.8

Up to you!

学校が抱える課題に正面から向き合うために...
インクルーシブ教育を考えた一日!

「今年もお世話になりました。」という挨拶が「ちゃぶ台ルーム」を飛び交ったのは27日。「Advanced Course 第6回研修会」を行いました。山口と広島の教員11人、現業にいられた千葉・岩手大の先生2人、専攻委員当番3人、東条・山口大の教職員12人に講師：松木先生の27人、3時間に基づいた松木先生のご講演は道々、中身ともに最高！まさに「Up to you！」レベルの高い研修会でした。

講義演習 福井大学教職大学院 教授 松 木 健 一 さん
「今後の特別支援教育や不登校児童生徒支援に求められるもの」

現在、福井大学の「学長特別顧問」として、また全国の教職大学院を牽引する福井大学教職大学院（教育学研究科教職開発専攻）の「生みの親」として活躍の松木先生。前日まで上海に出張...「」 福の...な行程の合間を縫って来て頂きました。今回はご専門の「インクルーシブ教育」のご講演。「だから...松木先生！、やっぱり、松木先生！」というレベル、個々の視野、国内動向や未来予想界を際立たせての科学的・系統的・実践的なお話には「まだまだ最先端でも2023は読んでみたい！」という声、声、声。本当にありがとうございました。

ありがとうございました！（受講者の感想から）

- 特別支援教育や不登校に陥る内容だけでなく、全ての教師、今後の学校教育に必要な学びを得ることができました。20代、今のこの環境が今後の自分の教師としての価値を決めていくこともよく理解でき、これからも「学び続けていきたい」と思いました。（小学校）
- 歴史的な背景や様々なデータ、社会現象と繋がる等完に、特別支援教育やインクルーシブ教育の観点やキャリア教育が求められる理由等大変勉強になるお話でした。本当にありがとうございました。（高校）
- 精神的な成長と身体的な成長のずれが青年期の悩みにつながっている、平均寿命の急増が精神的成長の遅れにつながる等、なるほど！と思うことが多く、個人差を意図に置きつつ、子どもと向き合いたいと思いました。大変貴重なお話をありがとうございました。（中学校）
- 現代の社会情勢からどのような教育が求められるのか、期待される教育者に注意を払うことが必要と感じます。過去の教育動向に疎かったため、勉強し直そうと思いました。（小学校）
- 社会構造が変化していく中で、個や価値の捉え方も大きく変えていかないといけないと思った。多様性の中で学ぶということは、グローバル社会には必須であり理想でもあると思う。生徒たちには新しい価値観を受け入れる素地を作っていくといけないと思った。（高校）
- 時間があつと惜しいあつたら良いのに...と思いました。不登校や発達障害etc、まだまだ聞きたいことがたくさんあります。（高校）

This is the Content!

- 同じ高校職の他の先生方と一緒に悩みを共有できていたことが、嬉しくもあり、力にもなります。
- 他校種の先生もいっしょって話がとても盛り上がりました。ふだん、知り合えないので...

「コーホートはこの「アドバンス」も学生と若手教員の「ベテラン」も、色々な所属(校種)や立場が入り混れる所が好きです。後輩たちに教えることもありますが、実は教えられることも多くて、学校の中でも後輩を育てるということ、私たち自身も雇われること、育てられることもあると思います。お話の中でも、ちゃぶ台協議でも感じましたが、2015年代に向かう私たちの育ち方でもありそうです。一そつとお戻りしたいと思います。そうした新しい成長モデル、人材育成スタイルの試行がこのプログラムでもあります。一緒に作りましょう。みんなですれぞれに働き合おうね！」

第6回「コーホート Advanced Course 通信」

学校課題のあぶり出しと重点化」作業シート

第8回 平成27年1月17日(土) 9:30~12:30

会場 山口市湯田温泉 ホテル「西の雅 常盤」コンベンションホール

目的

①第1回研修会と同目的

②「地域とともにある学校」づくりに関する現状と課題、全国的動向と今後のあり方等に関する研修をとおして、中堅教員の役割や自らの実践等について探求する。

内容

①総括講演「地域とともにある学校づくりを考える～時代が求めていること～」

講師 文部科学省初等中等教育局 参事官付学校運営支援企画官

出口 寿久 さん

②研究協議「中堅教員の行うべきこと～コミュニティ・スクールをとおして」

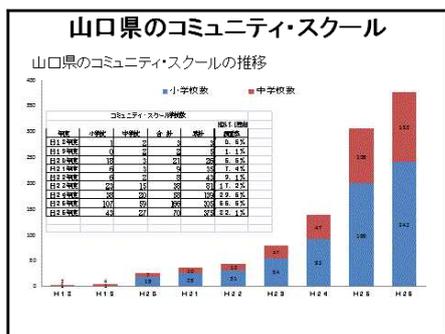
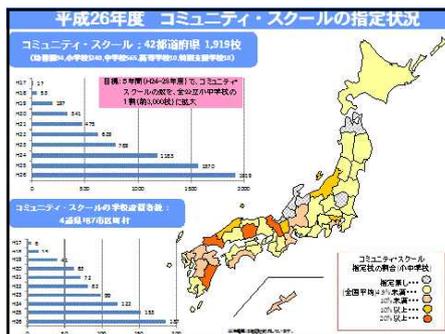
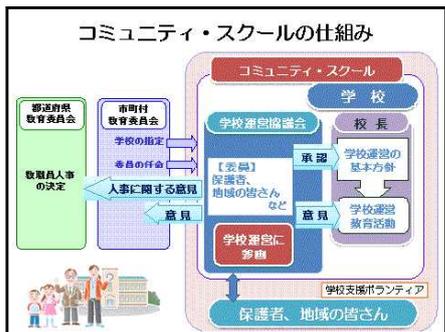
助言者 文部科学省初等中等教育局 参事官付学校運営支援企画官

出口 寿久 さん

文部科学省初等中等教育局 学校運営支援企画係員 菊池 建 さん

③ピア・サポート

参加者 受講者10人、講師・スタッフ等14人 計24人



ちやぶち次世代レポート Advanced Course 通信
山口大学教育学部(ちやぶち方式助産師学校)
教員研修モデルカリキュラム開発プログラム事務局
No.5 2015.1.28

文部科学省初等中等教育局参事官付学校運営支援企画官 出口 寿久 さん
「地域とともにある学校づくりを考える ～時代が求めていること～」

現在、文部科学省で「地域とともにある学校づくり(コミュニティ・スクール)」を推進されている出口先生、10校の現地 様さんと共に考えていただき、創設導入の背景、仕組みと現状、学校運営とコミュニティから今後の学校を眺めた地域関係者など、幅広い、他行きの深い講演をしていただきました。本当にありがとうございました。

この度は、ぜひ「湯田の街を一緒に歩んでみる」にお付き合いいただき、

コミュニティ・スクール(学校運営協議会)は、地域の学校の運営に保護者や地域住民等の声をまかす新しい運営の仕組みです。全国では42都道府県で1,919校が指定され、学校・家庭・地域社会の連携協働による学校運営を促し、教育の充実や子どもたちの健全育成に取り組んでいます。

特に山口県は、その指定率や継続状況から全国トップクラスと賞われています。小中学校457校中373校(81.6%)がコミュニティ・スクールに指定され、山口県を始める市町村が全小中学校を指定するなど、教育の「山口県らしさ」を基とする仕組みもなっています。研修テーマに設定した理由でもあります。

ありがとうございました！(受講者の感想から)

- 仕事をする上では、常に Visionary で Forward-looking でなければならぬと思っていて、今日の話はそれに合致していたものだった。教科指導や進路指導等の際に、生徒の10年後、20年後を考慮しながら指導しているつもりであったけれど、地元や地域の未来について考えていなかったと思った。(高校)
- 担任校もクラスも取り込んでいました。学習指導の面でも講師とせよおまかせでしたが、在籍整備や作物栽培等の際の助言、支援等、多くの方々に協力して頂きました。私自身、地域の方々との距離が縮まったように感じましたし、子どもも地域に愛着を湧かしていました。課題を乗り越えながら取り組んでみたいと思いました。(小学校)
- 主任になって分かったことが多い。①学校は学校評議員会、PTAの集まり、地域の集まり等意外に地域との繋がりが深いこと。②許可申請の仕組みから、地域施設の利用、学校施設の地域開放等が予想外に多いこと。③一般教員は学校と地域との関わりの実態を知らないこと。これらと今日のお話から大切と感じたことは、地域や保護者の声を素直に聞くことができるかどうか、学校の取組や考えを理解しきくと説明できるかどうか、学校とその地域を教員自身が好きになれるかどうか、ということかなと思った。(高校)
- 山口県に居てくると生徒が育てられるように、日々の教育実践を大切にしたいと思いました。地域との関わり、家庭との関わり等大変勉強になりました。本当にありがとうございました。(小学校)

This is the Goal!

「地域とともにある学校づくり」スライド(一部)」

第8回「コーホート Advanced Course 通信」

第5回 平成26年11月1日(土) 13:30~17:30

(「ちゃぶ台次世代コーホート」第2回研修会への乗り入れ開催)

会場 山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」、22・23・24番教室

目的

①第1回研修会と同目的

②学級・集団づくり、学習集団の組織化や活性化等に向けた実践発表・研究協議や、主体的な学習や行動を促すワーク等を行うことをとおして、実践的指導力や研修意欲、態度の向上を図る。

内容

①講義演習「これからの若手教員に期待すること」

指導者 下関市教育委員会教育研修室 室長 澄川 忠 男 さん

②グループ演習「研修の仲間づくり、ピアサポートワーク」

指導者 アドバンストコース受講者、プログラム運営スタッフ等

③実践事例発表、校種別ちゃぶ台協議

テーマ 「私の学級づくり、学級経営～これからの教員に求められること～」

指導者 やまぐち総合教育支援センター 研究指導主事 中 谷 靖 彦 さん

指導者 山口市立鴻南中学校 教諭 鈴 木 邦 幸 さん

指導者 山口県立大津緑洋高等学校 教諭 内 藤 智 芳 さん

④ピア・サポート

指導者 アドバンストコース受講者、プログラム運営スタッフ等

参加者 受講者12人(45人)、講師・スタッフ等15人 計27人(60人)

in high spirits!

「ちやぶ台次世代コーホート」通信NO.2 2014.11.2
山口大学教育学部教育実践・研修MOD事務局
山口県山口市吉田1477-1 TEL.083-923-9488

文化の風薫る季節...実りの季節...Cohortの季節!

各地から45人(総勢60人)が参加して「第2回研修会」しました!

「この道に数り行く紅葉 道にゆられて離れてきて、赤や黄色の色づくりに
赤のほかに緑も舞う...」... 華やか「秋」(10月)がはじまる季節。
そんな11月1日(土)の午後、東京・広島・福岡・山口の各地から学生2人、
若手教員10人に研修者4人、大学で山口県・山口市教委関係者11人の
計68人が集い、今回も温かく和やかに研修が開催されました。概要を報告します。

研修① 講話「これからの若手教員に期待すること」
下関市教育委員会(事務局)学校教育課教育研修室 室長 澄川忠男さん
規模の違う4つの小学校や教育委員会事務局で、また長年教育大学教職大
学院で培った経験もお持ちの澄川先生。その豊かな経験をもとに、「下関市の111区
や県庁や協議」「壁の中で求められる人材像」「受講者への期待」等について語って
いただきました。じっくりと考えさせられた1時間、盛り上がり、ありがとうございました。

ありがとうございます! (受講者の感想から)

- 小中ちやぶ やまぐち総合教育支援センター 中谷靖彦さん**
「若いことを誇りにする」という話を聞きました。私は
4月頃は休憩時間も遊びに出ていましたが、最近は
遊ばないで、準備もしたりに時間を潰っていました。
子どもと関わる時間大切にしていくべきです。(教員 3年)
自分の心に問いを持つことの大切さを感じました。何も知らないから分
ないではなく、自分の考えをきちんと持つって何事にも挑戦したい。(教員)
- 中ちやぶ 山口市立鴻南中学校 鈴木邦幸さん**
リーダーを務めることの大切さとそのための勉強
を学びました。自分が悪いもなかったような
話もたくさんあり大変勉強になりました。(教員 3年)
新学期の3日間が勝負だということが印象に残りました。「練る」ところは
練める。それでも練るべきだと実感する。難しいそうだと思いますが、
奥の奥の先生方を覚ながら学びたいと思います。(教員 4年)
- 高ちやぶ 山口県立大津緑洋高等学校 内藤智芳さん**
色々な学級経営の工夫が聞けて良かった。学級は学年や学校の一部なので、
学級で生徒を育てながらも学校全体という視点も忘れないと思いま
した。(教員)
「未来に誇りを持ってルールを決める」は昔から願っていた。
その高には色々なアンテナを張って創造力・想像力
豊かに生徒と接しないといけないですね。学校はなかなか変わ
らないかもしれないけれど、時間をかけて無らぬように
頑張ります!(教員)

次回は12月27日です。交流研修会あり、宿泊等は早めにご予約をお願いします。
相変わらず事務局のメール/ソフト不調です。受講生同士、横の連絡をお願いします。

第7回 平成26年12月27日（土）13：30～17：30

（「ちゃぶ台次世代コーホート」第3回研修会への乗り入れ開催）

会 場 山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」、11・22・23・24・32・42・43番教室

目 的

①第1回研修会と同目的

②学校教育におけるICT（情報通信技術）活用の現状と方向性に関する講義、研究協議やプレゼンテーション等を行うことをとおして、実践的指導力や研修意欲、態度等の向上を図る。

内 容

①講義演習「社会人として必要な資質について～情報セキュリティ、個人情報保護、著作権等の観点から～」

指導者 富士電機ITソリューション(株)ビジネス推進室 室長 芳賀敬輔さん

②デモ&プレゼン&研究協議、情報交換

提案者 ・LoiLo ・シャープビジネスソリューション

・富士ゼロックス山口・チエル ・日本コスモトピア

・鈴木楽器販売・スズキ教育ソフト ・パナソニックAVCネットワークス社・パナソニックシステムネットワークス・山口視聴覚機器

③ピア・サポート、振り返り

指導者 アドバンストコース受講者、プログラム運営スタッフ等

その他

・今回は「ちゃぶ台次世代コーホート」・「同 Advanced Course」受講者と山口県教育委員会による「山口県教師力向上プログラム」（教師力養成講座）受講者による合同研修の形で実施した。

参加者 受講者11人（92人）、講師・スタッフ等46人 計57人（138人）



「ちゃぶ台次世代コーホート」開催中。2015.12
山口大学教育学部教員養成-研修MCD事務局
山口県山口市吉瀬1677-1 TEL:083-923-5458

なんと...なんと...コーホート創設以来(8年間)で最大の138人が集って。
**知識基盤社会におけるICT活用、情報教育
子どもの可能性を伸ばす「学びのイノベーション」**

この「コーホート」は平成19年度にスタートして現在8年目。近年、登録会員は120人を超えて1人1人が参加者で100人を超えることはありませんでした。今年(12月27日)はなんと？ 受講生92人(現職教員27人、学生65人)、大学教員13人、教員研修者6人、千葉・宮守大学の教員2人に161関連企業の方々20人の計138人が集っての大会となりました。今後の学校教育の在り方について加齢、現代社会、知識基盤社会における人の有り様、先進技術活用の在り方等を編み込みに考えさせられた1日でした。

指導講義 富士電機ITソリューション株式会社
ビジネス推進室 室長 芳賀敬輔さん

社会人として必要な資質について
(情報セキュリティ、個人情報保護、著作権等の観点から)

ありがとうございました！(受講者の感想から)

- 若手教員としては、デジタル機器や様々なメディアに対してハードルが低く、危機管理に対して特に気をつけなければならないと思う項目が多かった。一方で教員間の知識の差が大きくて、知っている先生はよく知っている先生は全く知らないというところもある。子ども側での使用状況や保護者側の認識にも大きな差があると思う。(高校)
- 学校での情報セキュリティに関する講演は、この1年でも生徒対象と教員対象で2回あった。それだけ全ての人に重要な課題であると改めて分かった。セキュリティ対策で「ワイルドスワウ。ワイルドスクリーン」「紙を導通してから廃棄」というものがあった。講演があつてからそれらを心がけるようになり、自分がその対策が出来ていないことにも気づけた。やっても気づけていない。「インターネットに載せられるものは玉座に貼れるものだけ」というお話があつたが、ふれあい教育支援センターの方の講演でも全く同じことを言われて驚いた。(高校)
- とても具体的にわかりやすい講演でした。Facebookやブログ等で過去に自分が投稿した内容についても改めて考えさせられました。この問題は、単に教員としての問題ではなく、一人の人間としての振る舞いの在り方なんだと感じました。一方で、子どもに指導していくことの大切さ、親しきや知人や同僚の行動に対して自分はどう行動していくのか等についても考えたいと思いました。(小学校)
- 情報セキュリティで「自分の家の玉座に貼り出すのと同じこと」というのはインパクトが強かったです。そういう態度で情報公開に気を配り、生徒にもそれだけ情報が広くスゴい速さで伝わっていくことを教えたと思いました。(教員、4年)

プレゼンテーション&デモンストレーション

シャープビジネスソリューション 鈴木楽器販売・スズキ教育ソフト 日本コスモトピア
富士ゼロックス LoiLo パナソニックAVCネットワーク
チエル パナソニックシステムネットワークス 山口視聴覚機器

高平は「ICT関連企業ブースで体験するプレゼンデモ」。さすがに全国各地、世界を相手に飛び回ってらっしゃる専門家庭用。お見事な演、持ち込み機材やツールも多種多量。質疑と感動の2時間でした。

ありがとうございました！(受講者の感想から)

- ツールはいろいろあるけれど、結局誰がどのような目的で、どういう形で使用するのかが大事だと思う。使う人の知識や経験に任される部分も多くあると思う。いろいろなアプリやソフト等を使用できるのは良いけれど、本当にそれで良いのかと少し疑問に思った。教師として教材を作成する方も大事だと思う。(高校)
- 早急い着きテーマにして開発されているものが多いという印象を持ちました。習得回数を共有できるのはいいなと思いました。(教員、4年)
- ICTを使うことで、自分の意見を伝えたり発表したりするハードルが下がると思いました。ハードルが下がるとはメリットもあると思いますが、「人前で話すことに慣れる」、「言葉でしっかり伝える」という部分が減ってしまうのではという疑問も少し感じました。(教員、4年)
- どの業者さんの商品も大変面白く、私が子どもだった頃とは違うんだと思いました。英語科は書くことも大切なので、ICTを活用しつつも手書きとのバランスを考えていかなければと感じます。(人文、4年)
- 子どもたちの考えを交流させる場としてICTを活用できたら、考えを比べたり深めたりしやすくなるのかなと思いました。今回は子ども目線で体験することが多かったのですが、現場者として技術や活用の方を考えたかったです。(小学校)
- 今まで「学習内容の理解や知識を定着させる道具」として魅力を感じていましたが、今回「学習過程(パソコン操作を記憶)が見えて全員で共有できるもの」としての魅力を感じました。(小学校)
- ICTは特別な機器を使うという印象ももっていたのですが、毎日使える手軽さも大切なポイントなのだなと思いました。教員が「ICT便利」しないことも結果的にICTを使うために必要なことだと思います。採用一年目で教員の仕事を実感していたところなので、学びのツールとしてだけでなく、仕事の効率化につながるICT利用に興味が出てきました。サボりにならない程度ですが。(小学校)

今年も関係各社の方々の全面的協力により「コーホート」が開催できました。感謝申し上げます。

第7回「ちゃぶ台次世代コーホート 通信」

第9回 平成27年1月17日(土) 13:30~17:30

(「ちゃぶ台次世代コーホート」第4回研修会への乗り入れ開催)

会場 山口市湯田温泉 ホテル「西の雅 常盤」コンベンションホール

目的

①第1回研修会と同目的

②課題解決、企画立案に関する講義演習や、保護者連携についてのワーク、研究協議等を行うことをとおして、実践的指導力や研修意欲、態度等の向上を図る。

内容

①講義演習「課題解決、企画立案+プレゼンテーションの能力を鍛えよう」

指導者 株式会社ジブノオト 代表取締役 大野圭司さん

②演習、研究協議「学校(教員)と保護者との信頼関係づくり」

指導者 山口県PTA連合会役員(保護者代表)

副会長 八木敦浩さん(岩国市立川下中学校)

副会長 有元幸子さん(山口市立平川中学校)

副会長 細野美幸さん(防府市立桑山中学校)

総務委員長 三宅和彦さん(下松市立久保小学校)

教育問題副委員長 新升洋一さん(山陽小野田市立本山小学校)

家庭教育副委員長 上本敬子さん(美祢市立秋芳北中学校)

事務局長 岩村智子さん(山口県PTA連合会事務局)

事務局員 辻本千夏さん(山口県PTA連合会事務局)

③研修のまとめ

指導者 アドバンストコース受講者、プログラム運営スタッフ等

参加者 受講者10人(52人)、講師・スタッフ等20人 計30人(72人)



第10回 平成27年2月15日(土) 13:30~17:30

(「ちゃぶ台次世代コーホート」第5回研修会への乗り入れ開催)

会場 山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」、11・22・23・24・32・42・43番教室

目的

①第1回研修会と同目的

②教科等における学習指導や授業づくりの充実深化に向けた模擬授業、研究・実践事例発表や協議等を行うことをとおして、実践的指導力や研修意欲、態度等の向上を図る。

内容

①研究発表Ⅰ～Ⅲ(模擬授業、研究発表、実践事例発表)

発表者	福岡県福岡市立当仁小学校	教諭	上原尚子さん
発表者	山口県下関市立蓋井小学校	教諭	末永弘和さん
発表者	山口大学教育学部附属山口中学校	教諭	森泰一さん
発表者	山口県立西市高等学校	教諭	佐藤和生さん
発表者	広島県神石高原町立三和小学校	教諭	飯干新さん
発表者	山口県防府市立華城小学校	教諭	三木将太さん
発表者	広島県立大門高等学校	教諭	黒川真実さん
発表者	山口県立華陵高等学校	教諭	舛永隆宏さん
発表者	萩市立明倫小学校(やまぐち総合教育支援センター長期研修教員)	教諭	伊藤龍太さん
発表者	山口市立平川中学校(やまぐち総合教育支援センター長期研修教員)	教諭	塩屋賢子さん
発表者	周南市立富田中学校(やまぐち総合教育支援センター長期研修教員)	教諭	福田誠さん
発表者	山口県立光高等学校(やまぐち総合教育支援センター長期研修教員)	教諭	堀田英里さん

参加者 受講者11人(64人)、講師・スタッフ等24人 計35人(88人)



『ちゃぶ台次世代コーホート』通信HO.5 2015.2.18
山口大学教育学部教員養成・研修MCO事務局
山口県山口市吉田187-1 TEL.083-832-9458

今年も...Advanced Courseややまぐち総合教育支援センターと連携して.....

公開講座「教育諸課題を考えるワークショップ」開催

第5回研修会は、「ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course」とのコラボ企画として、また山口大学と山口県教育委員会(やまぐち総合教育支援センター等)との連携企画として、2月15日に開催しました。コーホート主催46人(教員20、学生26)、一般参加者18人(教員8、学生10)、県教員・研修センター3人、講師12人、大学教員9人(他大学2、山口大学7)の計88人の参加がありました。大変有意義な公開講座となりました。必ずが密かな連携関係、経験則を有する「センター」や「Advanced」の現場教員・自身の濃い模擬授業、実践発表や研究協議を提供して頂きました。ご提供くださった先生方、本当にありがとうございます。

【小学校：国語の授業づくり】
福岡県福岡市立当仁小学校 上原尚子先生
「国語の授業を行う上で「その教材で何を伝えるか」によって重視する箇所や考えさせる内容、教員の工夫の仕方が変わるということを、上原先生の実践から気づかされました。また、言葉による子どもの意思交流の大切さにも改めて感じさせられました。(教員)

【小学校：教職キャリアの形成】
山口県下関市立蓋井小学校 末永弘和先生
「全教員4人という職場環境の中で、島民の方々や協力して子どもを養育するという末永先生の実践は、福島や小規模へ赴きの学校ならではの実践とはいえ、「地域に開かれた学校」、「地域と共にある学校」そのものだと感じました。(MI)

【中学校：教職キャリアの形成】
山口大学教育学部附属山口中学校 森泰一先生
「教員として「自分の思いとおりに関わって来た」とも、自分にとってプラスになると伝える」、「この子にもきっとイイこと、イイところがあると思って関わる」等々、これら教員として動める上で非常に大切な考え方や実践を教員から教えて貰いました(中学校)

【高等学校：現場が抱える教育課題】
山口県立西市高等学校 佐藤和生先生
「しっかりと準備されている、指導先生の熱い思いが伝わってきました。(1)分業課はぜひ取り入れてみようと思います。+ 生徒と教師の関係も大切です。生徒の得意分野を見つけることも大切だと思います。本当にありがとうございます。(高校)

【小学校：校内研修の活性化と授業改善】
広島県神石高原町立三和小学校 飯干新先生
「どの学習や授業も、飯干先生の目標の学習経営が基盤になっていると感じました。子どもたち

もたらごどんな価値に気づいてほしいのかを考え、教材開発や授業づくりを考えたり、朝前から早速真似したい乎立てばかりの時間でした。(小学校)

【小学校：ICT活用と情報教育】
山口県防府市立華城小学校 三木将太先生
「三木先生の示された「3つの習慣」の中で、身銭を切る、憶えるもつというのが特に印象的でした。ICTの研修会等でも「へー」「すごい」「10年後はこれが当たり前になるのかな」等、少し他人事で聞いていましたが、自分で作って、実際に使ってみたいな!と思いました。(教員)

【高等学校：授業づくりと教師の言葉】
広島県立大門高等学校 黒川真実先生
「黒川先生の「生徒に即する」という言葉はとてもステキです。一人ひとりに向き合って、もっともっと子どもたちを大切にしたいと思いました。私自身一方的な授業になってしまっています。「生徒が入っていきける前向きな授業を作りたい」という言葉、忘れず授業を作っていきます。(中学校)

【高等学校：地域の教育資源と特別活動】
山口県立華陵高等学校 舛永隆宏先生
「生徒を指導する前にまず自分自身を律するところから」という言葉は、私自身が反省しなければいけないと思いました。情熱溢れる指導が目に見えようでした。(センター) 堀田先生)

【小学校：理科の授業づくり】
山口県萩市立明倫小学校 伊藤龍太先生
「理科」といえば実験、観察のイメージでしたが、伊藤先生のお話から、実験や検証計画の立案が中心にも「楽しい」と思ったのは初めてです。必要感があり、知識の残り方も違います。検証計画を積み重ねることで「科学的なものの見方考え方」も磨かれると思いました。(教員)

【中学校：英語の授業づくり】
山口県山口市立平川中学校 塩屋賢子先生
「塩屋先生のお話から、英語教員としてグローバルな考え方や視点を子どもたちに伝えたい、といった目的も、自分自身がフットワークを教員に、幅広い層から経験者を知ることが大切と感じました。どんなと外に出て学びたいと思います。(教員)

【中学校：生徒指導の充実】
山口県周南市立富田中学校 福田誠先生
「生徒指導について、届くは分かっているつもりでも実際にどうすれば良いかは曖昧で、今日の福田先生のいくつかの質問、投げかけに対して戸惑いました。しかし、その石階で自分自身を再確認できアンダーゲームマネジメントについても知る事ができたのが貴重な時間でした。(福祉学院)

【高等学校：英語の授業づくり】
山口県立光高等学校 堀田英里先生
「コミュニケーションを軸に、言葉を教える、理解を促します。英語教師として、自分のコミュニケーション能力を考えた方がいいと思います。それを生徒に教えることは難しいです。人は感覚的に言葉を理解するし、その感覚を身につけさせるには、堀田先生のお話から考えさせられました。(高校)

ありがとうございました!
「教えることにより学びというのは本当です。ある先生が仰いました。今後ぜひこういうスタイルの学びを大切にしたいと思っています。12人の先生方、ありがとうございました。」

第11回 平成27年3月21日（土）13：30～17：30

（「ちゃぶ台次世代コーホート」第6回研修会への乗り入れ開催）

会 場 山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」、11・22・23番教室

目 的

①第1回研修会と同目的

②本年度最終回であることに鑑み、地域とともにある学校づくりや教員の在り方、教員のメンタルヘルス等に関する講義演習やワーク等を行うことをとおして、実践的指導力や研修意欲、態度等の向上を図る。

内 容

①講演「心と身体のコントロール ～教員のメンタルヘルスを考える～」

講 師 ヒューマンヘルス研究所 代表 阪 口 由美子 さん

②講義演習「東日本大震災の今とこれからの学校、教員の在り方」

指導者 岩手大学教育学部 准教授 清 水 将 さん

指導者 宮城県総合教育センター 技術主査 金 野 智 津 さん

指導者 宮城県総合教育センター 主任主査 佐々木 美奈子 さん

③ピア・サポート「仲間の不安、悩みや相談事項と一緒に立ち向かおう」

指導者 アドバンスコース受講者、プログラム運営スタッフ等

④研修のまとめ、閉講行事

参加者 受講者14人（60人）、講師・スタッフ等14人 計28人（74人）

平成26年度 ちゃぶ台次世代コーホート（第6回研修会）開催要項	
平成25年度 同 Advanced Course（第11回研修会）開催要項	
1 趣 旨	教職希望学生と若手教員等が、主体的に意欲を持って、「教員としての資質」の深化や「教職実践課題の解決力」、「省察力」の醸成を図ることを目指した強固型教職研修を行う。特に、本年度最終回であることに鑑み、地域とともにある学校づくりや教員の在り方、教員のメンタルヘルス等に関する講義演習やワーク等を行うことをとおして、実践的指導力や研修意欲、態度等の向上を図る。
2 主 催	山口大学教育学部（ちゃぶ台次世代コーホート事務局）
3 共 催	山口県教育委員会 山口市教育委員会
4 開催日時	平成27年3月21日（土） 13：30～17：30
5 開催場所	山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」 山口市古田1677-1 教育学部3棟（中央総理棟）1階
6 参加者	教職希望の学生、若手教員（本務教員、臨時的任用教員）、教職志望者等
7 研修内容等	(1) 講演 (13:30～16:00) テーマ「心と身体のコントロール ～教員のメンタルヘルスを考える～」 講師 ヒューマンヘルス研究所（大阪府枚田市）代 表 阪 口 由美子 さん
	(2) 講義演習 (16:30～16:50) テーマ「東日本大震災の今とこれからの学校、教員の在り方」 講師 岩手大学教育学部 准教授 清 水 将 さん 宮城県総合教育センター（教育相談室） 技術主査 金 野 智 津 さん 宮城県総合教育センター（教職研修室） 主任主査 佐々木 美奈子 さん
	(3) ピア・サポート (16:55～17:25) テーマ「仲間の不安、悩みや相談事項と一緒に立ち向かおう」
8 その他	(1) 本研修事業は、山口大学教育学部「ちゃぶ台方式教職研修部」経費、並びに独立行政法人教員研修センター「平成26年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」受託経費により運営される。



(3)ピア・サポート

本プログラムでは、受講者同士が、各々の教職体験や日々の教職実践等に基づき、学習指導、生徒指導、学校運営、分掌経営や現代的諸課題等の教育実践上の悩みや不安、成功・失敗体験事例等について自己開示し、課題や問題点の共感的理解、課題解決に向けた協議や意見交換等を図り、「同じ世代の教職仲間（コーホート）」としての連帯感を深め、人間関係やネットワークづくりを行っている。ミドルリーダーをめざすという共通の「夢」を語り、「志」につなぐ貴重な研修機会となっている。



(4)その他

本プログラムでは、「課題研修A・B」や「実施指導研修」を柱とした様々な研修行事に前後して開催する形で「事業運営協議会」を実施している。研修講師として来学した大学教員、管理職等学校教員、教育行政関係者等と大学スタッフ（運営スタッフ）が参加し、各地で取り組まれている「ミドルリーダー養成研修」の内容・方法や指導者等の実際、学校現場が求める「ミドルリーダーとして期待される資質能力」、本プログラムに対する評価等について研究協議を行っている。本年度は4回（7月19日、8月30日、10月4日、12月27日）行ってきたが、大変有効な会と考えられ、今後も講師の来学日程等をふまえ協力をお願いする予定である。

3. 開発プログラムの評価（成果と課題）

(1)プログラムの評価の方法等

- 本プログラムの評価は、各研修行事に合わせて受講者が行う「自己評価」、プログラム推進途中や終了後に行う「本事業（プログラム）総合評価」により実施した。
- 受講者による「自己評価」については、基本的に以下の方法で実施することとし、その都度研修方法や内容の工夫改善を行った。

「課題研修A」については、受講者が各自の研修活動（教職実践）と省察を記録集積し、自ら立てた到達目標の到達度を自己評価するとともに、研修行事の中で実施される指導担当教員との研究進捗報告、研究協議、意見交換や受指導等をとおして形成的に行った。
- 「課題研修B」「実地指導研修」「ピア・サポート」については、各研修行事終了時に受講者が実施する「（自己）評価シート」により行うとともに、運営委員会（スタッフ）が年度途中や終了後に総合的評価を加えることとした。
- 各個別プログラム担当者においては、事業全体と個別プログラムの関わり、効果、課題等について不断の評価に努めるとともに、受講者の勤務校や教育委員会等との連携を密にし、プログラムの工夫改善に努めた。

ちやぶ台次世代コーホート Advanced Course (第1回) 評価シート 2014/7/19

※今回はご出席ありがとうございました。書ける範囲で結構です。自由に書いてください。

1. 基調講演「現在の学校における中堅教員、ミドルリーダーの役割」での学び、感想、意見や質問等があれば書いてください。

2. 演習「私の教職史～教職キャリア形成と目指すミドルリーダー像～」での学び、感想、意見や質問等があれば書いてください。

3. 他の受講生との関わりや共に研修する中での学び、感想、意見等があれば書いてください。

4. 学外指導者や大学スタッフからの学び、感想、意見や、研修プログラムの企画、運営等に関しての意見、感想や提案等があれば書いてください。

5. あなたの学びの満足度について「5段階」で記入してください。各回の研修内容が全ての項目に満たれるとは限りません。「学んでいない」と感じる項目は「0」を入れてください。

5: 強く(しっかり)学んだ	4: かなり学んだ	3: どちらとも言えない
2: やや不十分であった	1: 不十分であった	0: 学んでいない

土田謙策	プレゼン・演習	プログラム説明	その他(自由記述)
------	---------	---------	-----------

【差し支えなければお名前をお聞かせください】

「（自己）評価シート」の実際

(2) プログラム評価の実際と課題

- ・ 受講者（15人：スタッフで受講者世代にある附属中学校教員1人含む）に対する「各研修の満足度」について1月期研修会終了後に「聞き取りと自由記述」を行い評価した。プログラム全体での「満足度」を問うとともに、「課題研修B（外部講師等による講義演習型研修）」、「ピア・サポート：受講者相互の課題解決」、「課題研究A：学校現場での課題解決に向けた教職実践と省察」、「実地指導研修：ちゃぶ台次世代コーホート等に乗入れている指導助言等体験研修」に区分して評価をさせた。結果を図1に示すが、受講者に5段階評価をさせその平均値を示したものである。

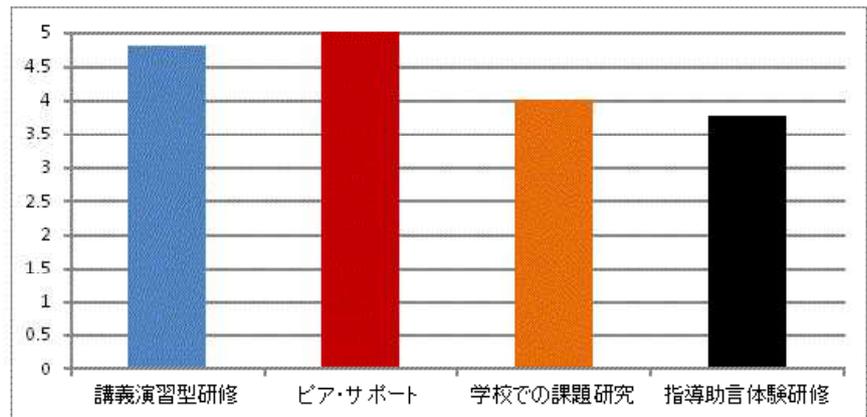


図1: 区分による結果(5段階評価の平均値)

- ・ 全体の「満足度」については10段階評価（最高評価10、最低評価1）で問うたが、平均値が「9.29」となり大変高い評価を得た。15人中7人が「10」、全員が「8」以上と回答し、本プログラムがミドルリーダーをめざす受講生の研修ニーズにかなりマッチしたものであると判断できた。
- ・ 各区分別は図1のとおり5段階評価（最高評価5、最低評価1）で問うた。高評価を得た区分から示すとともに、今後の課題についてふれる。
- ・ 「ピア・サポート」では全員が「5」と評価した。自由記述に出された「同程度の教職経験者としての信頼感や頼りがい」や「同じ悩みや苦しみの共有、安心感とやる気」を求める点については、プログラム開始時から想定していた要素であり、本プログラム開発の意図したものであったが、「山口県は初任者研修、フォローアップ（2・3年次）研修が充実しており、校内の人材育成会議等もあるので自己成長が図りやすく、そのまま6年次研修につながるが、実はその後の研修はほとんどない感じで、同年代同士も疎遠になりやすい。そんな時に同年代教員同士の刺激と切磋琢磨は魅力的である。」、「本当の勝負の年代を迎えているんだろうと思うが、そのような時こそ必要な連帯感と相互評価がここにはあるので嬉しい。」等には若年教員の意欲や情熱、中堅教員に向かう時期の交流を伴う研修の有効性が感じられる。今後も「ピア・サポート」の一層の拡充を図りたい。
- ・ 外部講師等による「講義演習型研修（課題研修B）」も「4.79」と高い評価を得た。運営委員会（運営スタッフ）が山口県・山口市教育委員会等と連携し必要課題の精選、全国レベルの講師招聘等を図ったことが高評価につながったと考える。「今、この世代の時に、日頃は意識したこともないが、絶対に考えるべき、学ぶべき内容について、全国区の方々から、豊富な実践経験、レベルの高い理論、全国動向や今後の方向性等にまで絡めて聞ける初めての体験で、毎回の研修が刺激的であった。」、「目から鱗」や「研修って面白い」等の自由記述にふれるたびに、今後も教育委員会と連携し、研修内容の精選、相応しい講師の選定や講師データベース化を進めることが必要と考えられた。
- ・ 「学校での課題研究（課題研修A）」は「4.0」であった。「課題研究自体に不慣れで、自分で何をどのように進めていくのか、何から取り組んでいくのか自体に戸惑った。」、「演習でやったSWOT分析と自分の研修課題が乖離していてつながりが難しかった。」、「まだ自分の学級や分掌に責任を果たすこと自体に精一杯の感じ。」等の声が多かった。

以下は、本年度の受講者の「個人研究課題」である（順不同）。これらを見ても、課題研究自体に不慣れな現段階では、課題研究の対象（教職実践の中心）が担当学級、教科・領域等に限定されることが分かる。

- (小学校) 思考力・判断力・表現力の育成～言語活動の充実を通して～
- (小学校) 個別に応じた学習指導の深化
- (小学校) 誰でもできる情報モラルの授業の作成
- (小学校) 地域の教育素材を用いた授業の改善
- (小学校) 一人一人が生きる学級経営のあり方
- (中学校) 学級づくりと体験的活動のつながり
- (中学校) 科学的な根拠に基づいて思考し続ける生徒を育てる理科の授業
- (高校) 発達障害がある生徒、疑われる生徒への学習指導、生活指導について
- (高校) 教科内全教員が目標を共有し、指導観をそろえて指導する手段としてのCAN-DOリストを機能させる方法(教科マネジメント)
- (高校) 生徒同士の「学び合い」を中心とした授業について研究
- (高校) 多様な在籍生徒に対するキャリア教育の改善
- (高校) 発達障害や傾向のある生徒・保護者に対する対応、クラスに対する対応
- (高校) 地域伝統行事への参加を通じての特色づくりと生徒の育成
- (高校) 学力向上に向けた英語教育の改善

しかし、次のような自由記述もある。「まだ経験が浅いこともあって、学年や分掌全体に目が行かない。しかし、今回の研修は、学校や学年という大きな枠組みの中で自分の学級や分掌も動いていることに気づかされた研修でもあった。今後は目を向けていかねばと実感した。有り難かった。」 実際、第1回終了後の課題「学校課題のあぶり出し(左図)」とSWOT分析やマネジメント手法を学んだ第2回終了後の課題「学校課題の明確化(右図)」ではその記述(思考)質量が大きく変化していること。小学校籍と高等学校籍の2例を報告する。今後も、ミドルリーダー養成に資するマネジメント研修を充実させる必要性を認識した。

ワーク「学校課題のあぶり出し」自分自身が感じるままの「本校の現在」

① 氏名	〇〇〇〇
② 勤務校	〇〇市立〇〇小学校
③ 学校課題等	児童生徒数、学級数、取り巻く環境等 ・児童数…2年生1名、3年生1名の計2名 ・学級数…1 ・取り巻く環境…自然豊かな静画(人口約100人)の単小規模校。地域や保護者の方々が学校教育に協力的で、運動場整備やプール清掃、学芸会や運動会に力づくみで参加していただいている。
④ 本年担当	担当学年 2、3年複式学級 ・統制分掌 主に教務(校長、教務、事務、給食・食育、掲示の統制以外全て)
⑤ 学校の特徴	私自身が、私の学校で自慢できると思うこと、ものや特色等 ・児童が素直、学力と体力が高い、生徒指導上の問題がない。 ・少人数なので、児童のやりたいことや私がやらせたいことが校長の許可がおりれば全園・運営できる。 ・ウニ取り、沖釣り、田植え、稲刈り、野鳥観察等の体験活動がたくさんあり、新聞、テレビ等のメディアによく取り上げられる。
⑥ 学校の課題	私自身が、私の学校で解決したい、すべきと思うこと、もの、悩み等 ・学校行事や体験活動が多いことは本校の教育目標を達成させるためには必要と私も感じているが、多すぎて授業時数が削られているのが現状である。感謝祭や学芸会、運動会等は地域の方々も参加されるため、クオリティの低いものは強引です。練習時間や準備に相応な指導時間を割いている。今は、全校児童とも2人ずつの基礎学力が高いので授業の進度を上げてみてきているが、4年後には全校児童が8名になる予定であり、児童によって学力差も出てくると思う。そうすると、学力を定着させるためにはある程度の授業時数の確保が必要と考えるが、行事の精選を行うと島の方々から批難されそうで悩んでいます。 ※本校の教育目標「ふるまとのよさがわかる豊かな人間性とたくましい実力のある児童の育成」
⑦ 研修テーマ	私自身が、現時点で考えている研修テーマ、対象等 ・学力向上に効果的かつ楽しい複式授業スタイルの構築。



ワーク「個人研究テーマの設定と実践の見直し-方向(案)」

① 氏名	〇〇〇〇
② 勤務校	〇〇市立〇〇小学校
③ 学校課題等	【1年生】 ・全校児童2名(2年生女子1名、3年生男子1名) ・教職員4名(校長、養護士、給食調理員兼保健師、私) 参考 1427年度予定 ・全校児童3名(1年生男子1名、3年生女子1名、4年生男子1名)
④ 学校の現状	学校のみ、個々との課題 【長所】 ・教職員、保護者、地域との連携が取れている。 ・地域の方々が学校教育に協力的であり、島全体で子どもを育てようとする風土が根付いている。 ・単小規模校なので、自分の児童のやりたいこと、やるべきことがしやすい環境である。 【短所】 ・兄弟のみの複式学級なので、同学年同士の学び合いがなく、異世代とのコミュニケーションの取り方が苦手である。壁まにに受けける。 ・単小規模校なので、学校行事や体育の授業などに制限がある。 ・児童一人にかかる発達障害や学校行事の仕事を負担がかり、準備や練習に時間をとられ、授業時数の確保に苦慮している。
⑤ 研修テーマ	研修をとおして解決を目指したい課題、テーマ ① 児童同士の学び合いが難しい複小規模校での複式の指導。 ② 異世代とのコミュニケーション能力の育成、指導。
⑥ 実践の現状	その課題、テーマに対するこれまでの取組 ① 教師が児童役になり、意図的に間違った答えや異なる意見を言うことで仲よがる。 ・児童が共通の話題で課題に取り組めるような導入の工夫。 ・兄が先生役になり、教師と姉が児童役をし、兄が前半の準備もできるような指導の工夫。 ・交流学習先の学校で、学び合い活動のある授業をしてみよう。または、自分がTEでやらせてもらう。 ② 交流学習先の学校では、本校の児童との壁わりを最長以上に、児童同士の関わりを見守る。また、クラスの中で友だちや本校児童の言動を注視し、良かった点などをその都度伝える。
⑦ 見直し、方向	これから減らしたい研修の方向や見直し これまで、へき地複式教育の研修会に複数回参加してきた。しかし、どれもガイド学習やリーダー学習を取り入れ、学年に1人しかいない複式学級の授業は想定されていなかった。 今年も複式学級を有する学校が増えていく。その中で、5名以下の極少人数の複式学級の担任をするとも考えられる。その場合における指導方法の整などがあれば、ぜひ学びたい。また、自身が構築していきたい。

・記入できる範囲で記入し、9月26日(金)までに、ファイル提出(メール添付)してください。
・複式ファイル(エクセルファイル)は、登録アドレス宛に、メール(ファイル添付)にて配布します。

「学校マネジメントの考え方や分析手法を学んだ前と後の記述の変化(小学校教員)」

ワーク「学校課題のあぶり出し」：自分自身が感じてるままの「本校の現在」		ワーク「個人研究テーマの設定と実践の見直し」方向(案)	
① 氏名	〇〇〇〇	① 氏名	〇〇〇〇
② 勤務校	〇〇県立〇〇高等学校	② 勤務校	〇〇県立〇〇高等学校
③ 学校規模等	各学年6クラス 計24クラス 計955名 普通科(各学年1クラスは普通科理数コース、平成15年から) 今年で創立40周年 校是「新学・新学・新業」 「参加と実行の日課」○チャイムを厳守しよう ○廊下を正そう ○全員で掃除しよう ○予習復習をしよう ○挨拶をしよう ミッション ○充実した授業等による高い学力の獲得 ○達成感の経験による豊かな人間性の育成	③ 学校規模等	高学年6クラス 計24クラス 計955名 普通科(各学年1クラスは普通科理数コース、平成15年から) 今年で創立40周年 校是「新学・新学・新業」 「参加と実行の日課」○チャイムを厳守しよう ○廊下を正そう ○全員で掃除しよう ○予習復習をしよう ○挨拶をしよう ミッション ○充実した授業等による高い学力の獲得 ○達成感の経験による豊かな人間性の育成
④ 本年度担当	担当学年：2学年副担任 校務分掌等：進路指導部 空千道部 英語部	④ 学校の現状	学校によさ、強みと課題 ○理数コースがあり、数学において少人数指導が実践され、学力の伸長が図られている。理科では大学の教官による講義(サイエンス/パートナーシップ)を実施している。修学旅行ではつくばサイエンスセンターに行くとともに、理数科目への興味や関心を持った生徒が育成できる。 〇〇県の学力向上事業チャレンジハイスクールに指定されており、1年時には社会大オープンキャンパスへの参加、県内企業研修に参加できる。2年時にはチャレンジハイスクール合同学習会館に参加することができる。高い志望を持たせ、学力を高めていけることができる環境である。 ○部活もクラブもがんばりたいと思っている意欲的な生徒が多い。(ただし学習スタイルは受身) ○随時行動を起こす生徒は少なく、基本的に随時集まる。
⑤ 学校の特徴	私自身が、私の学校で自慢できると思うこと、ものや特色等 ○理数コースがあり、数学では徹底した少人数指導による一層の学力の伸長。理科では大学の教官による講義・実験を中心とした講義(サイエンス/パートナーシップ)を実施している。理数科目の興味・関心をもった生徒の育成をしている(目指している)。 ○部活とクラブ活動を両立したい生徒が多い。70～80%の部活動加入率で、クラブ活動を盛り上げながら、部活もしたいと思っている。(実際に両立できているかは・・・)	⑤ 研修テーマ	研修等として解決を目標とした課題、テーマ 生徒の力を伸ばすために、教科内の全員が目標を共有して、指導官をそろえて指導するための手段としてのGAN-DOリストを構築させる方法を探りたい。
⑥ 学校の課題	私自身が、私の学校で解決したい、すべとと思うこと、もの、悩み等 最終の中で、指導の一貫性がない。目標の共有がなれておらず、指導観がばらばらである。 どんな生徒を育てようとしているのかわからない。 これは校内の業務でも同様(統一したルールがない様子)。	⑥ 実践の現状	その課題、テーマに対するこれまでの取組 〇〇高校英語科GAN-DOリストの研究(どうやって作られたか、その文書から何を意図されているか) 〇〇高校英語科GAN-DOリストと他校のGAN-DOリストを比較。 生徒の実践調査(〇〇GAN-DOに基づいてアンケートを作成・実施) 英語科の教員数人と実施(実地) 3年生の個別指導を通して、1・2年生でつけておくべき力の把握
⑦ 研修テーマ等	私自身が、現時点で考えている研修テーマ、対象等 生徒の力を伸ばすために、目標を共有して、指導官をそろえて指導するための手段としてのGAN-DOリストを構築させる方法	⑦ 見直し、方向	これから進めたい研修の方向や見直し アンケート調査の分析の仕方を勉強し、分析をし、指導に還元する。 教科会などでは、意見をできるだけ出し、改善への方向付けをする。 なんとGAN-DOリストについて調査、意見を広げる。 生徒の実践力を高めるための評価問題について考える。

「学校マネジメントの考え方や分析手法を学んだ前と後の記述の変化(高等学校教員)」

- 学校現場を学びの場とした課題研究の充実には、大学教員の関わり方、研修支援の工夫改善が必要となる。この点では多くの課題を残し、次年度以降の改善が必要となった。大学教員は各受講者の指導担当教員となり、毎回の研究協議において指導助言、研究資料等提供や情報交換等を行ってきた。またメール等の活用を試みながら支援を行ってきた。しかし、大学でのカリキュラム(授業時間割)の不都合(毎日の午前午後複数授業を担当する、各種会議が錯綜する、兼業・出張用務が連続する等)から、平日の学校訪問と研究支援が困難であった。本プログラムは、本学が平成28年度に開設を予定する教職大学院の学修・研究スタイルにもつながるが、時間割編成の改善による学校訪問曜日の確保、会議や学部組織のスリム化と会議等日程の調整、学校訪問(学外用務)に伴うサービス・福利厚生制度の改善等が必須であると認識できた。
- また、「現場の生の状況や雰囲気等を交換しながら、その時その場で聞いてみたい事例も多くある。双方向通信とそれらに基づく実践ポートフォリオが蓄積され共有できるとよい」等の記述が3人からあった。情報通信機器が常に身近にある世代ならではの発想にも思えるが、オンデマンドの研修に対する期待感、可能性も感じられる。今後の課題である。
- 「指導助言体験研修」は「3.79」と、他研修における満足度と比較するとやや不十分であった。「そういう機会自体がないので何をどのように言えば良いかわからない。」「全くの経験不足。改めて指導主事や管理職の先生方のすごさが分かった。」という記述があった反面、「話そう、伝えよう、しかも分かりやすくと思えば思うほど自分の課題となり、自分が試される。一番厳しい研修かもしれない。」とした受講者もいた。「ちやぶ台次世代コーホート」等の受講者を対象とした実践発表、研究報告、指導助言等の体験機会の拡充を、今後更に進めていきたい。
- 最後に、山口県内学校が有する現代的課題(山口県課題)の現状と課題、分析や解決に向けた内容は、今後も系統的・計画的に取り上げ、地域密着型の課題研修として展開する。

IV 連携による研修の成果と課題

1. 大学と教育委員会との連携協力の拡充

- ・ 本プログラムが対象とする課題は山口県に限らず全国共通の課題であり、本プログラムの開発は各地のミドルリーダー育成プログラムや私立学校を含む現職教員研修の開発、工夫改善に資する可能性を秘めている。大学と教育委員会には、課題とされるミドルリーダー育成研修に協働してあたりその成果を検証することをとおして、今後の養成・採用・研修の一体化を図る教員養成、教職研修システムを改善することが期待されている。
- ・ 本プログラムの開発にあたり、本学（学部）と山口県内教育委員会との間で以下の内容について多大な協力が得られた。
 - ①研修内容や方法の検討、講師選定、広報周知や対教委・对学校の連絡調整
 - ②受講生確保（受講推薦・推奨等）にかかる教委・学校との共通理解、情報提供
 - ③教育委員会主催教員研修等との相乗に関する協議（ミドルリーダー養成研修、経験教員研修、総合的な教師力向上のための調査研究事業、若手人材育成の強化・加速1000日プラン、中堅教員段階の管理職候補者育成プログラム等との相乗）
 - ④やまぐち総合教育支援センター、市町教育委員会、教育関係機関等との連携調整
- ・ 特に、山口県教育委員会・山口市教育委員会とは、カリキュラム作成、講師選定、広報周知、受講者推薦や対市町教育委員会・对学校の連絡調整等に向けた緊密な連携が進展した。教員の養成・採用・研修の一体化に向けた機運の醸成や今後の教職大学院開設に向けて、大きな前進があったと考えている。この経験を活かし今後の取組を進めていきたい。

2. 教員養成系大学・学部における教員養成・研修事業の活性化

- ・ 本プログラムでは、多くの大学教員を本プログラムや学校等現場での課題研修等に参画させることにより、学校現場と結びついた実践的研究の拡大、教員養成や人材育成の充実、教職大学院の充実等につながることが期待した。
- ・ 前述のように、学校現場における課題研究に対する関わりの未成熟の部分を今後の課題として改善していくこととするが、研修内容や方法等の開発の部分では、多くの大学教員の理解と協力が得られ、意識改革と現職教員研修に対する積極的な関わりの雰囲気醸成できた。教職大学院開設や学部改組等様々な改革とリンクさせながら、今後の取組を活性化させていくこととする。

特に、実務家教員と研究家教員が一体となった取組事例の蓄積、学校現場と結びついた実践的研究の拡大、実務家教員（交流人事教員）のコーディネート機能の充実等で得た経験を今後に生かしていきたい。

3. ミドルリーダー育成につながる研修スタイルの確立

- ・ 全国的には行政主導の教員研修（専門研修）が多い中、ミドルリーダーに向かう同年代教員が、自主的・自発的に集い、週休日開催を前提に、相互研修組織を構成し、協働教職研修を行う研修スタイル事例は少なく、新たなミドルリーダー育成研修の一つのスタイルを提案することができた。

また、自らの教職実践上の悩み、不安や困難事例等を自主的に開示し、同年代の仲間と共に解決していこうとする実効的な教員研修パターンを開発することもできたと考えている。

特に、受講者の研修ニーズに応える「課題研修A」、必要課題である「課題研修B」を組み合わせるとともに、教えることにより自らの学びを深化させ学校を舞台に課題探究にも資する「実地指導研修」、同年代同士の研修ならではの充実が期待できる「ピア・サポート」等を通じて協働していくことで、教職にかかる具体的な指導力、実践力に加えて、同僚性、関係性、連帯性等定型化されにくい資質能力をあぶり出すことにも一定の前進があったと考えている。

V その他

- [キーワード] ミドルリーダー育成、協働型教職研修、学校課題の解決、実践研究、共有と省察、ピア・サポート、機関連携
- [人数規模] D. 51名以上（登録受講者数14人、延べ参加受講者数120人、大学教員等を含む総研修参加者数317人）
- [研修日数（回数）] D. 11日以上（ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course 11回）
ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course 単独研修5回
ちゃぶ台次世代コーホート 乗り入れ研修6回
- [研究分担者等] 研究代表：岡村康夫（山口大学教育学部 学部長・教授）
研究担当：霜川正幸（山口大学教育学部・教授・ちゃぶ台研修部長）
研究分担：松田信夫（山口大学教育学部・副学部長・教授）
村上清文（山口大学教育学部・教授）
佐々木司（山口大学教育学部・教授）
鷹岡 亮（山口大学教育学部・教授）
中田 充（山口大学教育学部・教授）
静屋 智（山口大学教育学部・教授）
岡村吉永（山口大学教育学部・教授）
松本清治（山口大学教育学部・准教授）
藤上真弓（山口大学教育学部・講師）
研究協力：佐々廣子（山口大学教育学部・アドバイザー）
長砂志保子（山口大学医学部・係長）
久保田尚子（山口大学教育学部・職員）
連携協力 山口大学教育学部附属学校・園（山口小学校、光小学校、山口中学校、光中学校、特別支援学校、幼稚園）連携等担当者
山口大学教育学部附属教育実践総合センター

【問い合わせ先】 山口大学教育学部 教授 霜川正幸
〒753-8513 山口県山口市大字吉田1677-1
TEL&FAX：083-933-5458 E-mail：m-shimo@yamaguchi-u.ac.jp

山口県教育庁教職員課 主査 山本 弦
〒753-8513 山口県山口市滝町1-1-1
TEL&FAX：083-933-4550 E-mail：a50200@pref.yamaguchi.lg.jp

山口市教育委員会学校教育課 副参事 岡本 壽之
〒753-8513 山口県山口市中央5丁目14-22
TEL&FAX：083-934-2862 E-mail：gakko@city.yamaguchi.lg.jp